

講 義 要 旨

2 0 2 4 年 度

アルウィン学園
玉成保育専門学校

講義要旨目次

1.	キリスト教概説	1年(前) ……………	1
2.	憲法	1年(後) ……………	2
3.	時事問題	2年(前) ……………	3
4.	生活科学	1年(前) ……………	4
5.	情報機器の活用	1年(前・後) ……………	5
6.	文章表現	1年(前・後) ……………	6
7.	英語コミュニケーション	1年(前・後) ……………	7
8.	保健体育 I	1年(前) ……………	8
9.	保健体育 II	1年(後) ……………	9
10.	幼児と健康	2年(後) ……………	10
11.	幼児と環境	1年(前) ……………	11
12.	幼児と言葉	1年(前) ……………	12
13.	幼児と表現 A	1年(後) ……………	13
14.	幼児と表現 B	2年(後) ……………	14
15.	幼児と音楽 A	1年(前・後) ……………	15
16.	幼児と音楽 B	2年(前) ……………	16
17.	保育原理	1年(前) ……………	17
18.	教育原理	1年(後) ……………	18
19.	子ども家庭福祉	1年(前) ……………	19
20.	社会福祉	1年(前) ……………	20
21.	子ども家庭支援論	2年(前) ……………	21
22.	社会的養護 I	1年(前) ……………	22
23.	教職概論	2年(前) ……………	23
24.	教育保育社会学	2年(前) ……………	24
25.	保育者論	2年(後) ……………	25
26.	モンテッソーリ教育概論	1年(後) ……………	26
27.	フレール教育概論	1年(前) ……………	27
28.	キリスト教保育	2年(前) ……………	28
29.	保育の心理学	1年(前) ……………	29
30.	臨床心理学	2年(前) ……………	30
31.	子ども家庭支援の心理学	1年(後) ……………	31
32.	子どもの理解と援助	1年(後) ……………	32
33.	子どもの保健	2年(前) ……………	33
34.	子どもの食と栄養	2年(前・後) ……………	34

35.	保育の計画と評価	2年(前)	35
36.	保育内容総論	2年(前)	36
37.	健康指導法	2年(前)	37
38.	人間関係指導法	1年(後)	38
39.	環境指導法	1年(後)	39
40.	言葉指導法	1年(後)	40
41.	表現指導法	1年(後)	41
42.	表現活動指導法 A	2年(前)	42
43.	表現活動指導法 B	2年(後)	43
44.	音楽 I (理論)	1年(前)	44
45.	音楽 II (声楽)	1年(後)	45
46.	保育教材研究 A	2年(前)	46
47.	保育教材研究 B	1年(後)	47
48.	保育教材研究 C	1年(前)	48
49.	乳児保育 I	2年(前)	49
50.	乳児保育 II	2年(後)	50
51.	子どもの健康と安全	2年(後)	51
52.	障害児保育	2年(前・後)	52
53.	特別支援教育の理解と支援	2年(後)	53
54.	社会的養護 II	2年(後)	54
55.	子育て支援	2年(後)	55
56.	教育相談	2年(後)	56
57.	保育実習 I a	1年(後)	57
58.	保育実習 I b	1年(後)	58
59.	保育実習指導 I a I b	1年(後)	59
60.	保育実習 II	2年(後)	60
61.	保育実習 III	2年(前)	61
62.	保育実習指導 II III	2年(前・後)	62
63.	教育実習 I	1年(後)	63
64.	教育実習指導 I	1年(前・後)	64
65.	教育実習 II	2年(前)	65
66.	教育実習指導 II	2年(前)	66
67.	教育保育実践演習	2年(後)	67

科目名	キリスト教概説	授業形式	講義
教員名	友野富美子	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	キリスト教概説		
授業の概要	キリスト教とはどのような宗教か概観するとともに、聖書の人間観や信じる生き方について考えを深める。賛美歌や聖書紙しばいなど、キリスト教会やキリスト教幼児教育で用いられているものにも触れながら、キリスト教が私たちに伝えていることを学ぶ。		
授業の到達目標 (ねらい)	聖書に親しむこと、キリスト教に触れることは、「人間とはどのような存在なのか」「自分あるいは他者はどんなに大切な存在なのか」を知ることに通じる。目の前の幼児を「かけがえのない隣人」とするまなざしを聖書の言葉から読み取り、学校の教育目標である「地の塩」「世の光」となるとはどのようなことかを知る。		
授業計画	1. オリエンテーション 2. キリスト教とは～聖書、賛美歌、祈り、教会 世界の中のキリスト教 カルトについて 3. 旧約聖書～世界の創造、人間の創造 4. 旧約聖書～いのち、性、共に生きる 5. 旧約聖書～自由に生きる～出エジプト 6. 旧約聖書～悲しみのなかをどう生きるか 知恵文学、預言者 7. 新約聖書～イエス・キリストとはだれか クリスマス 8. 新約聖書～イエスがしたこと 教え・癒し・共食 9. 新約聖書～十字架と復活 生と死とそれから 10. 新約聖書～教会という共同体 11. 新約聖書～力づけられる出来事 ペンテコステ 12. イエスと出会った人々～マルティン・ルーサー・キング牧師 13. 聖書のドラマを読む 14. 「愛」を考えよう～模擬結婚式 15. 神なき世界を生きる～地の塩、世の光		
評価方法	レスポンスペーパー:30%(授業の感想や意見など)・授業貢献度:20%(積極的な役割分担、発言など) 礼拝レポート:30% 期末レポート:20%		
テキスト *必ず購入			
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	憲法	授業形式	講義
教員名	平野 善昭	授業区分	必修
年次担当	1年次後期	単位数	2単位
授業表題	日本国憲法を学ぶ		
授業の概要	日本国憲法の各規定の内容を確認し、その趣旨を考える		
授業の到達目標 (ねらい)	憲法が我々の日常生活にどのような関わりを持っているのかを理解するとともに、憲法は何のためにあるのかを考察する中で、常に「なぜなのか？」を考える姿勢を身につける。		
授業計画	1. ガイダンス、日本国憲法の構成 ～ 憲法にはどのようなことが書かれているのか～ 2. 基本的人権総論、法の下での平等 ～ 1票の格差はどこまで許されるのか～ 3. 精神的自由権 ～ 「時限爆弾の作り方」という本を自由に出版してよいか～ 4. 経済的自由権 ～ 国道の建設のために家を立ち退かなければならないのか～ 5. 人身の自由 ～ 誘導尋問された自白は裁判の証拠になるのか～ 6. 社会権、参政権 ～ 生活保護者と低所得者とのバランスをどう考えるか～ 7. 基本的人権のまとめ ～ 「二重の基準」とは何か～ 8. 三権分立、国会の地位 ～ 国会は他の二権より「えらい」のか～ 9. 国会の運営 ～ 衆議院と参議院の結論が分かれたらどうするのか～ 10.内閣 ～ 総理大臣を国民の選挙で選ぶことはできるか～ 11.裁判所 ～ 裁判官によって判決が異なってもよいのか～ 12.財政、地方自治 ～ 財政のことがなぜ憲法に書かれているのか～ 13.天皇、戦争の放棄 ～ 自衛の戦争は認められるのか～ 14.憲法の改正、日本国憲法の生い立ち、統治機構のまとめ ～ なぜ憲法は簡単に改正できないのか～ 15.期末評価試験、全体のまとめ		
評価方法	期末評価試験(80%)、提出物及び授業態度(20%)		
テキスト *必ず購入	「面白いほど理解できる憲法(第4版)」(憲法研究会) 早稲田経営出版(2023)		
参考書 *必要に応じ 購入	「憲法判例集(第12版)」(渋谷秀樹) 有斐閣新書(2022) 「現代語訳 日本国憲法」(伊藤 真) ちくま新書(2014)		

科目名	時事問題	授業形式	講義
教員名	加納 拓朗	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	社会人、保育者として知っておくべき社会問題・教育課題を考える。		
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞記事やニュース等を見て事実を理解する。 2. その上で、自身の感じたことや考えたことを整理する。 3. 発表やディスカッションによって他者と共有する。 		
授業の到達目標(ねらい)	事実と考えを混同することなく文章化できる。聞き手や読み手に伝わるように話し方・伝え方を工夫できる。教育における諸問題を中心に、事実を理解しその背景を考察できる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション なぜ「時事問題」を学ぶのか。「先生」と呼ばれる仕事とは。 2. 教育と福祉 幼児教育と保育、文部科学省と厚生労働省、幼稚園と保育所と認定こども園の違いやその歴史。 3. 情報の取捨選択 メディア、SNSとの付き合い方や活用方法。教員の仕事とは。 —教師バトナー— 4. 成人年齢の引き下げ できることとできないこと。 —選挙権、契約、飲酒と喫煙— 5. 少子高齢化と待機児童 子どもの数は減っているのに保育所に入れない、その背景と現状。 6. 学びの連続性 保幼小連携の現状と課題。 —幼児期の終わりまでに育ってほしい姿— 7. 専門職、聖職とは 保育士や先生は誰にでもできる仕事なのか。 8. 教員の多忙化と残業 コミュニティスクール、地域に開かれた学校の関係法令と現状。 9. 子どもの権利と保育 子どもの権利条約の意味や意義と内容理解。 10. 世界の教育・保育 レゾエミア、サドベリーバレーを中心に。 11. 社会人が知っておくべきルール・マナー ルールやマナーの意味や必要性。 12. いじめ、虐待の現状 「問題行動」といわれるものと、その子どもの背景。 13. 日本の教育でタブー視されるもの 性教育、政治教育の現状と配慮すべきこと。ジェンダーや多様性。 14. 試験・レポート 15. まとめ 保育者・子ども・保護者を取り巻く社会の状況。 		
評価方法	小レポート(30%) 発表(30%) 試験・レポート課題(40%)		
テキスト *必ず購入	特になし。 適宜、資料を配布する。		
参考書 *必要に応じ購入	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針解説」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省		

科目名	生活科学	授業形式	講義
教員名	櫛木 祥子	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	日常生活の事象を「子どもと生活」という視点を持って理解する		
授業の概要	生活の中で生じる様々な課題を、「子どもと生活」という問題意識を高め、それを支える知識・技能の修得を促す。		
授業の到達目標 (ねらい)	生活の中で生じる様々な課題を、「子どもと生活」という問題意識をもって理解し、得られた知識・技能を生かし、より良い生活を創造できるようにする。		
授業計画	1. オリエンテーション・衣生活(着ること)		
	2. 衣生活(着ること)		
	3. 衣生活(布の成り立ち)		
	4. 衣生活(布の成り立ち)		
	5. 住生活(住居の歴史)		
	6. 住生活(環境と住まい)		
	7. 住生活		
	8. 住生活		
	9. 食生活(安全性)		
	10. 食生活(安全性)		
	11. 消費生活(契約)		
	12. 消費生活(問題商法)		
	13. まとめ		
	14. まとめ		
	15. 消費生活		
評価方法	期末試験60%・小テスト20%・授業へのとりくみ(レポート・課題)20%		
テキスト *必ず購入			
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	情報機器の活用	授業形式	演習
教員名	鈴木 健一	授業区分	必修
年次配当	1年次通年	単位数	2単位
授業表題	情報機器の活用		
授業の概要	<p>多くの情報の中から目的にあった情報を取捨選択し、必要に応じて情報を加工・分析し、情報をわかりやすく表現できる能力を養うための基本的な知識と技術を学ぶ。 Word、Excel、PowerPointを中心に、分析整理した情報を様々な形式で発信できる技術を学ぶのみならず著作権の重要性・情報モラル・情報セキュリティを学び、社会人として必要最低限のルールを理解し、これからの情報社会に参画する態度を身につける。</p>		
授業の到達目標(ねらい)	<p>①コンピュータの基本的操作を習得することができる。 ②情報伝達手段としての文書の重要性を理解し、情報を効果的に伝える文書を作成し、発信する能力と態度を身につけることができる。 ③数値データをその目的に応じて処理・分析し、問題解決に活用することができる。</p>		
授業計画	1. ガイダンス 授業の進め方、PC関係機器の使用・操作方法の解説	16. Excelの基本操作①	
	2. PCの基本操作	17. Excelの基本操作②	
	3. キータイピング タイピング練習	18. Excelの表計算①	
	4. キータイピング 文章の作成	19. Excelの表計算②	
	5. インターネットの基礎、情報検索	20. Excelの表計算③	
	6. 基本操作 メールの使用、作成	21. Excelによる課題文書作成①	
	7. PCを用いて絵を書く(Paintの使用)	22. Excelによる課題文書作成②	
	8. 情報倫理 インターネット利用とモラル、著作権、個人情報の保護	23. Power Pointの基本操作①	
	9. Wordの基本操作	24. Power Pointの基本操作②	
	10. Wordによる文章の作成①	25. Power Pointの応用操作①	
	11. Wordによる文章の作成②	26. Power Pointの応用操作②	
	12. Wordによる複雑なレイアウトの文書作成①	27. Power Pointによるプレゼン作成①	
	13. Wordによる複雑なレイアウトの文書作成②	28. Power Pointによるプレゼン作成②	
	14. Wordによる課題文書作成①	29. Power Pointによるプレゼン発表①	
	15. Wordによる課題文書作成②	30. Power Pointによるプレゼン発表②	
評価方法	<p>授業の取り組み:50点 課題提出:50点</p>		
テキスト *必ず購入	なし(授業時に配布)		
参考書 *必要に応じ購入	なし(授業時に配布)		

科目名	文章表現	授業形式	演習
教員名	榎木 茂義	授業区分	選必
年次配当	1年次通年	単位数	1単位
授業表題	読みやすく、自分の気持ちが相手にきちんと伝わる文章を書くことによって、保育者としてふさわしい文章能力を身につける		
授業の概要	毎時漢字の小テストを行う。 テキストを用いて、適切な語法や構成力などを養う。 与えられた題について、考察・感想を書く。 与えられた文章を読み、それに対する考察・感想を書く。課題の文章について賛否両方から考察する。 対立する複数の文章を読み、その考察を書く。		
授業の到達目標(ねらい)	基本的な文章作成能力を高める。特に保育者として必要な文章作成力が養成する。 そのために、テキストを用いて、表記・漢字・文法・敬語や適切なことばの使い方などを学ぶ。 文章の文体・構成・段落の分け方・事実と考察・感想の区別を正しく理解する。 漢字の小テストを繰り返すことで、漢字を正しく、丁寧に書くことができるようになる。 400字～800字の作文(小論文)を繰り返し書き、添削指導を受けることで文章力を養い、社会的な視野を広げる。 自己の考え方を明確に文章にすることができるようにする。		
授業計画	1. 授業オリエンテーション (授業目的、授業内容、ふりかえりの内容) 課題文の添削指導	16. 漢字小テスト テキスト8 文法 課題文の添削指導	
	2. 漢字小テスト テキスト1 仮名づかい 課題文の添削指導	17. 漢字小テスト テキスト9 推敲 課題文の添削指導	
	3. 漢字小テスト テキスト2 送り仮名 課題文の添削指導	18. 漢字小テスト 課題文の添削指導	
	4. 漢字小テスト 課題文の添削指導	19. 漢字小テスト テキスト10 表現(文を短くする) 課題文の添削指導	
	5. 漢字小テスト テキスト3 同音異義語 課題文の添削指導	20. 漢字小テスト テキスト11 表現(的確に伝える) 課題文の添削指導	
	6. 漢字小テスト テキスト4 同訓異字 課題文の添削指導	21. 漢字小テスト 課題文の添削指導	
	7. 漢字小テスト 課題文の添削指導	22. 漢字小テスト テキスト12 表現(文体) 課題文の添削指導	
	8. 漢字小テスト テキスト5 類義語 課題文の添削指導	23. 漢字小テスト テキスト15 接続詞 課題文の添削指導	
	9. 漢字小テスト テキスト6 慣用表現 課題文の添削指導	24. 漢字小テスト 課題文の添削指導	
	10. 漢字小テスト 課題文の添削指導	25. 漢字小テスト テキスト16 段落に分ける 課題文の添削指導	
	11. 漢字小テスト テキスト25 手紙を書く 課題 暑中見舞いを書く	26. 漢字小テスト テキスト17 構成1 課題文の添削指導	
	12. 漢字小テスト 課題文の添削指導	27. 漢字小テスト 課題文の添削指導	
	13. 漢字小テスト テキスト7 敬語 課題文の添削指導	28. 漢字小テスト テキスト18 構成2 課題文の添削指導	
	14. 試験	29. 試験	
	15. 漢字小テスト 試験問題の振り返り、添削指導	30. テキスト内容の復習	
評価方法	毎時行う漢字小テスト(10%) 課題や課題文の作文の提出状況と、その内容(40%) 試験(40%) 授業中の意欲(10%)		
テキスト *必ず購入	基礎からの国語表現の実践 頻度順漢字2300plus		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	英語コミュニケーション	授業形式	演習
教員名	平原 麻子	授業区分	必修
年次配当	1年次通年	単位数	2単位
授業表題			
授業の概要	国際化の進む日本社会の中で、保育士・幼稚園教諭として求められる英語力とは何かを考えながら、保育の現場を扱った教科書を中心に、聞く・話す・読む・書くの4技能の習得を目指します。		
授業の到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の現場に必要な英語コミュニケーション力を身につけます。 ・様々な外国文化に触れ、保育士としての視野を広げます。 ・社会人として必要な国際性と教養を身につけます。 		
授業計画	1. Orientation 自己紹介	16. Orientation 夏の思い出	
	2. アルファベットチャンツ Classroom English	17. Unit 9: Let's eat lunch!	
	3. Unit 1:What's your name?	18. What do you want to do?	
	4. Unit 2: Where are you from?	19. Unit 11: What do you have to do?	
	5. Unit 3: Good morning!	20. I need to go potty	
	6. Unit 4: Are you OK?	21. まとめ (Week17-Week20)	
	7. まとめ (Week2-Week6)	22. Unit 13: Good job!	
	8. Unit 5: What are you doing?	23. Unit 14: Injuries and emergencies	
	9. Unit 6: How are you feeling?	24. Unit 15: We're going to go outside	
	10. Unit 7: What's she like?	25. まとめ (Week22-Week24)	
	11. Unit 8: Do's and Don't's	26. 英語の歌	
	12. まとめ (Week8-Week11)	27. クリスマスの行事	
	13. 英語の絵本 (Brown Bear , Brown Bear, What do you see? 1)	28. 英語の絵本 (Very Hungry Caterpillar 1)	
	14. 英語の絵本 (Brown Bear , Brown Bear, What do you see? 2)	29. 英語の絵本 (Very Hungry Caterpillar 2)	
	15. 前期の振り返り 夏の計画	30. 1年間の振り返り	
評価方法	授業態度、提出課題、パフォーマンス課題、筆記試験		
テキスト *必ず購入	『Speaking of Childcare 保育学生のための英語コミュニケーション』南雲堂		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保健体育 I	授業形式	講義
教員名	高橋 裕勝	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	1単位
授業表題	健康的なライフスタイルの実現に向けて、健康の維持・増進に有効な理論や方法をもとに考えていく。		
授業の概要	本科目は、生涯にわたる健康の維持・増進に役立つ生活習慣病の予防やストレスマネジメント、身体のトレーニング方法について学び、運動習慣の必要性や健康的なライフスタイルについて考える。		
授業の到達目標 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ストレスマネジメントや生活習慣病について理解する。 2. 身体トレーニングの基本的事項について理解する。 3. 健康的なライフスタイルについて、自分なりの考えを持つことができる。 		
授業計画	1. ガイダンス 授業概要、評価方法		
	2. スポーツとは スポーツの特徴		
	3. 健康とは 疾病生成論と健康生成論		
	4. 心の健康 ストレスマネジメント		
	5. 子どものからだと心① からだと心の実態		
	6. 子どものからだと心② 生活の実態		
	7. パラスポーツ パラスポーツの概要		
	8. 生活習慣病と運動 代表的な生活習慣病		
	9. 生活習慣病の予防と改善 予防と改善の基本		
	10. 体力を測る 行動体力と防衛体力		
	11. バイオメカニクス バイオメカニクスの基礎知識		
	12. トレーニングの原理・原則 ルーの法則		
	13. レジスタンス運動 トレーニングプログラムの立案		
	14. 有酸素運動 カルボーネン法、自覚的運動強度		
	15. まとめ 健康的なライフスタイル		
評価方法	定期試験(50%)、課題(20%)、授業への積極的な取り組み(30%)		
テキスト *必ず購入	『スポーツ健康科学』 佐藤洋 みらい		
参考書 *必要に応じ 購入			

科目名	保健体育Ⅱ	授業形式	実技
教員名	高橋 裕勝	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	保育学生のための体育実技		
授業の概要	運動の実践を通して、運動の楽しさを体感する。 運動の類似性や動きのコツを学ぶ。 仲間と共に活動する中で、コミュニケーションの方法を学ぶ。		
授業の到達目標 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動の楽しさを体感し、日々の運動習慣に繋げることができる。 2. 運動学習のポイントを理解し、運動技能の向上に活かすことができる。 3. 運動学習のポイントを理解し、子どもの運動指導に活かすことができる。 4. ルールやマナーを遵守し、仲間と協力して安全に楽しく運動ができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 授業についての説明および確認 2. マット運動(1) 安全な身のこなし 3. マット運動(2) ゆりかご、前転、後転 4. 長縄跳び のびやかな連続ジャンプ 5. 短縄跳び 1回旋1跳躍と1回旋2跳躍 6. ウォーキング 姿勢、接地 7. ランニング 動き作り、スキップ 8. 前半のまとめ 復習と総括 9. 球技(1) ドッジボール 10. 球技(2) バドミントン 11. 球技(3) ビーチボールバレー 12. 鉄棒(1) つばめ、ふとん 13. 鉄棒(2) 逆上がり 14. ダンス 3拍子で踊る 15. 後半のまとめ 復習と総括 		
評価方法	実技試験(40%) 課題提出(40%) 授業への積極的な取り組み(20%)		
テキスト *必ず購入	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
参考書 *必要に応じて購入	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)幼稚園教育要領解説(文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)保育所保育指針解説(厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府)		

科目名	幼児と健康	授業形式	演習
教員名	高橋 裕勝	授業区分	必修
年次配当	2年次後期	単位数	1単位
授業表題	幼児の運動遊び		
授業の概要	領域「健康」を踏まえ、子どもの身体を育む運動遊びの実践に必要な知識と技術を学ぶ。 具体的な環境設定、援助方法、安全面の配慮等について学ぶ。 教具の有効かつ安全な活用方法を学ぶ。		
授業の到達目標(ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの身体の発達や領域「健康」のねらい及び内容についての理解を深める。 2. 子どもの身体を育む運動遊びを構想し、安全に実践できる。 3. 運動の類似性や動きのコツを理解し、モデルとなって動くことができる。 4. 教具を有効かつ安全に活用することができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 授業に関する説明および確認 2. 身体をほぐす ストレッチ、呼吸、姿勢 3. 伝承遊び 仲間と遊ぶ 4. マット運動(1) 動物歩き、ゆりかご 5. マット運動(2) 保育を構想し実践する 6. 縄跳び(1) 縄跳び歌、1回旋1跳躍と1回旋2跳躍 7. 縄跳び(2) 保育を構想し実践する 8. 前半のまとめ 復習と総括 9. 鉄棒(1) つばめ、ふとん、逆上がり 10. 鉄棒(2) 保育を構想し実践する 11. 走る遊び(1) おにごっこ、リレー 12. 走る遊び(2) 保育を構想し実践する 13. ボール遊び(1) 投げる、とる、蹴る 14. ボール遊び(2) 保育を構想し実践する 15. 後半のまとめ 復習と総括 		
評価方法	実技試験(40%) 課題提出(40%) 授業への積極的な取り組み(20%)		
テキスト *必ず購入	『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康』無藤 隆 萌文書林		
参考書 *必要に応じ購入	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)幼稚園教育要領解説(文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)保育所保育指針解説(厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府)		

科目名	幼児と環境	授業形式	演習
教員名	加納 拓朗	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	1単位
授業表題	「遊びを通して学ぶ」「環境を通して行う保育」の意味を、実際に活動して理解する。		
授業の概要	保育における「環境」のねらいと内容を理解し、環境を通じた保育の意味を学ぶ。活動・体験を通して子どもを取り巻く物的環境・人的環境の変化について考え、子どもの心身の成長発達における「環境」の重要性、意義を考察・理解する。		
授業の到達目標(ねらい)	領域「環境」の指導において必要な感性を養い、子どもを取り巻く環境の変化やその課題を理解する。子どもの心身の発達を理解し、幼児期の発達過程における望ましい環境構成の重要性を理解する。子どもにとっての「遊び」の重要性を理解し、考察する。		
授業計画	1. 領域「環境」とは 2. 子どもの遊びと環境 ―映像を見てグループディスカッションを行う― 3. 領域「環境」のねらいと内容 4. 環境の諸側面 ―物的環境・人的環境とは― 5. 子どもの発達と環境① ―身体的側面― 6. 子どもの発達と環境② ―心理的・認知的側面― 7. 子どもを取り巻く環境の変化と課題 ―ESD、SDGs、Society 5.0― 8. 乳幼児の身近な物・施設との関わり[活動] ―地図の作成― 9. 乳幼児の数量・図形・標識・文字との関わり[活動] ―生活の中の図形・標識探し― 10. 乳幼児の自然との関わり[活動] ―フィールドビンゴ― 11. 乳幼児の文化・伝統との関わり ―児童文化財の活用― 12. 乳幼児の情報との関わり ―ICTの活用― 13. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「環境」 14. 環境を通じた保育・遊びを通じた保育の意味 15. まとめ 保育における環境の重要性		
評価方法	授業態度、小レポート(30%) 試験・レポート(40%) 提出課題(30%)		
テキスト *必ず購入	横山文樹 駒井美智子編著(2020)『保育を学ぶシリーズ③保育内容「環境」』 大学図書出版		
参考書 *必要に応じ購入	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針解説」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省		

科目名	幼児と言葉	授業形式	演習
教員名	小林 恵	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	1単位
授業表題	幼児と言葉		
授業の概要	領域「言葉」について構造的に捉えたうえで、乳幼児期の言葉の獲得過程や言葉の意義と機能について理解し、保育者としてどのように関わっていけばよいのかを事例及び映像等を通して学ぶ。豊かな感覚や言葉を育むために必要な基礎知識を身につけることをめざしていく。		
授業の到達目標(ねらい)	領域「言葉」のねらい及び内容と子どもの言葉を育てる保育者の役割や環境について理解する。乳幼児の発達や学びの過程を理解し、言葉の感覚を豊かにする保育者の役割や援助の仕方を身につける。領域「言葉」の特性に応じた現代の課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる力を養う。		
授業計画	1. オリエンテーション ・授業の進め方 ・言葉とは何か 2. 領域「言葉」の内容理解 3. 乳幼児期の言葉の教育 4. 乳幼児期における言葉の発達①0歳～2歳 5. 乳幼児期における言葉の発達②3歳～6歳 6. 生活体験と言葉 7. 言葉と遊び 8. 感動体験と言葉 9. 言葉の発達を促す児童文化財 10. 文字との出会い 11. 子どもの育ちを支える保育者の言葉 12. 言葉の関わりに配慮を要する子ども(映像を使用) 13. 保幼小の連携と言葉 14. 幼児期の言葉の課題 15. まとめ(これまでの授業内容の振り返り)		
評価方法	定期試験(60%)、受講態度、個人発表、課題提出(40%)から総合的に評価する。		
テキスト *必ず購入	子どもの育ちを支える 子どもと言葉 浅見 均編著 大学図書出版		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	幼児と表現A	授業形式	演習
教員名	藤岡 郁子 他	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	音楽・造形表現における基本的な保育技能を身につける		
授業の概要	領域「表現」に示されたねらい及び内容を踏まえ、乳幼児の発達に合わせた表現活動を経験しながら、保育者としての感性を磨くことを目指す。子どもの豊かな感性を育むために、保育者がどのように関わっていくのか実践例を通して具体的に学習する。		
授業の到達目標(ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」の内容を理解し、子どもの発達と関連させながら捉えることができる。 2. 音楽Ⅰ・Ⅱや造形で身につけた知識や技術を基に保育の場で実践できる力をつける。 3. いくつかの課題を通して、学生自身の表現意欲を高め、感性を磨く。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ・授業の概要とねらい ・領域「表現」の内容理解 2. シュタイナー教育について 素材に触れ、表現方法を考察する 実際の園での様子—ICTを活用した映像資料の視聴— 3. シュタイナー教育(造形による表現) にじみ絵の体験をする 4. シュタイナー教育(造形による表現) 羊毛の手しごとを経験する 5. シュタイナー教育(造形による表現) 羊毛の手しごとを通して—グループで学習内容の話し合い— 6. 音楽と動き 手あそびとは 〈実際の園での様子〉—ICTを活用した映像資料の視聴— 7. 音楽と動き 手あそびの目的 手あそび、うたあそび 8. 音楽と動き 手あそびを通して感覚、リズム感、思考力を育てる 手あそび、うたあそび 9. 音楽と動き 手あそびのまとめ 手あそび、うたあそび 10. コダーイの基本理念に基いて自国の伝承音楽を学ぶ わらべうたとは 〈実際の園での様子〉—ICTを活用した映像資料の視聴— 11. コダーイの基本理念に基いて自国の伝承音楽を学ぶ 自然とわらべうた —実際の自然に触れ、その感想を共有— 12. コダーイの基本理念に基いて自国の伝承音楽を学ぶ 文化とわらべうた —わらべうたができた背景の文化— 13. コダーイの基本理念に基いて自国の伝承音楽を学ぶ 音楽教育としてのわらべうた —グループで学習内容の話し合い— 14. コダーイの基本理念に基いて自国の伝承音楽を学ぶ わらべうたのまとめ 各自授業内発表 15. まとめ ITCを使用した表現活動方法の考察、授業で学んだことの振り返り 		
評価方法	筆記試験50% 授業態度・意欲50%		
テキスト *必ず購入	「わらべうた・カノン集 まめっちょ1」(コダーイ芸術研究所編) 全音楽譜出版社 「保育所保育指針解説」厚生労働省		
参考書 *必要に応じ購入	プリント(必要に応じて)		

科目名	幼児と表現 B	授業形式	演習
教員名	鈴木 衛	授業区分	選必
年次配当	2年次後期	単位数	1単位
授業表題	様々な楽器に触れ、「合奏」という音楽体験を通して豊かな表現力や感性を育む		
授業の概要	簡単なリズム遊びや楽器遊び、グループ毎による合奏の体験を通して、音楽の楽しさや仲間と心を合わせる大切さを味わい、人間力や自己表現力を養う		
授業の到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の楽しさを知る ・2年次前期までに受講してきた音楽系科目で学んだ事を発展させて、高度な技術や音楽性を身につける ・実際の保育現場で求められる、子どもたちへの合奏指導に対する能力の修得 		
授業計画	1. オリエンテーション、楽器の基本的な扱い方と奏法(1) 2. 楽器の基本的な扱い方と奏法(2)、指揮法(1) 3. 指揮法(2)、クリスマスコンサートに向けての曲決め(1) 4. クリスマスコンサートに向けての曲決め(2)、グループによる簡単なアンサンブル(1) 5. グループによる簡単なアンサンブル(2) 6. 合奏(1) 各グループの進捗状況に応じて、個人練習やパート練習、合奏練習などを行う 7. 合奏(2) 各グループの進捗状況に応じて、個人練習やパート練習、合奏練習などを行う 8. 合奏(3) 各グループの進捗状況に応じて、個人練習やパート練習、合奏練習などを行う 9. 合奏(4) 各グループの進捗状況に応じて、個人練習やパート練習、合奏練習などを行う 10. 合奏(5) 各グループの進捗状況に応じて、個人練習やパート練習、合奏練習などを行う 11. 本番会場でのリハーサル セッティングや音量バランスなどを確認し、最終調整を行う 12. まとめの演習(1) 実際の保育現場での合奏を想定した演習を行う 13. まとめの演習(2) 実際の保育現場での合奏を想定した演習を行う 14. まとめの演習(3) 実際の保育現場での合奏を想定した演習を行う 15. まとめの演習(4) 実際の保育現場での合奏を想定した演習を行う		
評価方法	演奏発表、まとめの演習、授業への取り組みに対する意欲や姿勢などによって総合的に評価する		
テキスト *必ず購入	「たのしい楽器あそびと合奏の本」 赤羽美希著 (株)ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス		
参考書 *必要に応じ購入	プリント配布など、必要に応じて授業時に案内します		

科目名	幼児と音楽A	授業形式	演習
教員名	佐々木直子・高橋 真理子・長谷川 顕子・藤岡 郁子	授業区分	必修
年次担当	1年次通年	単位数	2単位
授業表題	保育の現場で求められる演奏技術習得のためのレッスンで伴奏法と指導法を習得する。子どものうたの弾き歌いを中心に音楽表現の楽しさを味わい、子どもの発達状態に合わせてその楽しさを伝えるための実力を身に着ける		
授業の概要	ピアノの演奏能力には個人差があるので、それぞれ学生にあった教材を選び、個人レッスン形態で授業を行う。幼稚園や保育園で日常的に用いられる曲の演奏や季節の子どもうたの弾き歌いができるようになることに重点をおく。子どもうたのレパートリーを増やすと共に、バイエルを用いてピアノ演奏の基本技術を習得する。事前に各自のピアノのレベルを確認し、5段階レベルの本人に合った進度表を用い、進度に遅れないよう毎日練習しレッスンを受ける。		
授業の到達目標(ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的なバイエルも練習しながら、保育現場で求められる演奏技術を習得する 2. 実習や保育現場で実際に使用する子どもうたの弾き歌いができる 3. 子どもの発達に合わせ、保育における音楽表現の楽しさを伝えられる知識・技能・表現力を身に付ける 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 ガイダンス びあのどりーむ4-1.3 2. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 びあのどりーむ4-4.5.6 3. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 びあのどりーむ4-9.10.11 ハ長調のれんしゅう 4. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 びあのどりーむ4-14.17 5. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 びあのどりーむ4-18.20 おはようのうた ト長調のれんしゅう 6. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 びあのどりーむ4-24.25 どんぐりころころ 7. レベル別チェック 授業内発表 8. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 バイエル48 とんぼのめがね 9. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 バイエル58 みつばちマーチ 10. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 バイエル61 ふしぎなポケット 11. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 バイエル60 ニ長調の音階(片手ずつ) 12. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 バイエル66 かたつむり 13. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 あめふりくまのこ 14. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 14回目までの復習 15. 成果発表 授業内発表 	<ol style="list-style-type: none"> 16. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 バイエル103 おべんとう おかえりのうた 17. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 やきいもグーチャーパー ハ長調の音階 (片手ずつ)まつぼっくり 18. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 ハッピーバースデー 19. 夏休み課題 授業内発表 20. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 バイエル94 さよならのうた 21. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 バイエル72 山の音楽家 22. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 あわてんぼうのサンタクロース 23. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 お正月 24. 進度チェック 授業内発表 25. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 バイエル75 ゆき 26. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 バイエル83 とけいのうた 27. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 あくしゅでこんにちは うれしいひなまつり 28. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 思い出のアルバム 29. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 29回目までの復習 30. 成果発表、授業内発表 春休み課題指示 	
評価方法	授業への参加態度(40%)及び実技試験(60%)		
テキスト *必ず購入	「標準バイエル」全音楽譜出版社 「保育のための歌と遊び こどもの世界」(尾林裕美子他編集)ドレミ楽譜出版社 「音楽リズム 幼児のうた楽譜集」(小林美実編)東京書籍		
参考書 *必要に応じて購入	「びあのどりーむ 4」(田丸信明著)学研パブリッシング プリント		

科目名	幼児と音楽B	授業形式	演習
教員名	内山 菜津子・北川 聖子・吉沢 美香・藤岡 郁子	授業区分	選必
年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	こどものうたを伴奏するための演奏技術と弾き歌いの能力向上を目指す		
授業の概要	領域「表現」に示されたねらい及び内容を理解し、「幼児と音楽A」で学んだ内容をもとに、子どもの音楽活動を支える基礎技能としてさらに高度なピアノ演奏技術を身につける。 実習や保育現場で必要な子どものうたの弾き歌いを中心に音楽表現の楽しさを味わい、乳幼児の音楽活動に役立つ実力を身につける。 子どもたちの様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむを実現するためにクラシック曲も学ぶ。		
授業の到達目標(ねらい)	1. パイエルを使用して譜読みの練習とテクニックを習得する。 2. 季節、行事、園生活に必要な曲がスムーズに弾き歌いできるようにする。 3. 子どもの発達に合わせ、保育における音楽表現の楽しさを伝えられる知識・技能・表現力を身に付ける。		
授業計画	1. オリエンテーション 領域「表現」のねらいと内容を理解し音楽表現の重要性と知識・技能・表現力を習得するためのこの授業の方法説明 ―ICTを活用した映像資料の視聴― 2. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン 春休みの課題 ex. 入門 おべんとう(原曲)・おかえりのうた(原曲)・礼 3. 春休みの課題発表 授業内発表 4. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン(教育実習に備えて) ex. 入門 はをみがきましよう おかたづけ 5. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン(教育実習に備えて) ex. 入門 あまだれぼったん 6. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン(教育実習に備えて) ex. 入門 世界中の子どもたちが 7. 教育実習に向けて今まで学んだこどものうたの弾き歌いの復習 8. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 たなばたさま 9. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 さんぽ 10. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン(クラシックの曲を弾いてみよう) 11. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン(クラシックの曲を弾いてみよう) 12. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン(クラシックの曲を弾いてみよう) 13. 自由曲(クラシック曲)の発表 14. 連弾の説明 仲間と協力して行う音楽活動の意味や意義、連弾の楽しさを知るために、ICTを活用した連弾の映像資料の視聴 15. ペアでの連弾の曲選び及び練習		
評価方法	授業への参加態度(40%)及び実技試験(60%)		
テキスト *必ず購入	「保育のための歌と遊び こどもの世界」(尾林裕美子他編集)ドレミ楽譜出版社 「音楽リズム 幼児のうた楽譜集」(小林美実編)東京書籍		
参考書 *必要に応じて購入	プリント(必要に応じて)		

科目名	保育原理	授業形式	講義
教員名	二階堂 邦子	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	保育原理		
授業の概要	<p>保育の営みは子どもを大切に主体として考えることから始まる。 この授業では、保育とは何かを考察し、保育の意義と目的を理解する。 保育・幼児教育がどのように位置づけられ、法制度の中で行われているのか学習する。</p>		
授業の到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の理念や概念を学び、保育の意義と目的を理解する ・日本の法制度を学び、多様な保育と子育て支援を理解する ・保育の基本と構造を理解し、保育実践と関連づけることができる 		
授業計画	1. 保育とはなにか 意義と目的		
	2. 子どもの存在と子ども理解		
	3. 日本の保育思想と歴史		
	4. 諸外国の保育思想と歴史		
	5. 保育の社会的意義と役割		
	6. 保育にかかわる関係法令		
	7. 子ども・子育て支援新制度		
	8. 保育制度(保育所・幼稚園・認定こども園)		
	9. 幼稚園教育要領における保育の構造、変遷課程		
	10. 保育所保育指針における保育の構造、変遷課程		
	11. 保育における養護と教育		
	12. 乳児の保育		
	13. 3歳以上児の保育		
	14. 保育政策の動向		
	15. 「今は」における保育の現状と課題		
評価方法	定期試験(70%)、課題レポート(30%)		
テキスト *必ず購入	保育学のはじめの一步～おさなごにまなぶ～ 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育保育要領解説		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	教育原理	授業形式	講義
教員名	大川 洋	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	2単位
授業表題	教育原理		
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の理念ならびに教育に関する歴史および思想を学ぶ。 2. 教育に関する社会的、制度的、経営的事項を学ぶ。 		
授業の到達目標 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の本質、意義、目的、目標および子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 2. 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3. 教育の制度について理解する。 4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する。 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。 6. 学校と地域との連携、および学校安全への対応を理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義 予習・復習:テキストの第1章「教育の意義」を読む。 2. 教育の目的 予習・復習:テキストの第2章「教育の目的」を読む。 3. 乳幼児期の教育の特性 予習・復習:テキストの第3章「乳幼児期の教育の特性」を読む。 4. 教育と子ども家庭福祉の関連性 予習・復習:テキストの第4章「教育と子ども家庭福祉の関連性」を読む。 5. 人間形成と家庭・地域・社会 小テストを実施。予習・復習:テキストの第5章「人間形成と家庭・地域社会」を読む。 6. 諸外国の教育思想 予習・復習:テキストの第6章「諸外国の教育思想」を読む。 7. 諸外国の教育の歴史 予習・復習:テキストの第7章「諸外国の教育の歴史」を読む。 8. 日本の教育思想・歴史 予習・復習:テキストの第8章「日本の教育思想・歴史」を読む。 9. 子ども観と教育観 予習・復習:テキストの第9章「子ども観と教育観」を読む。 10. 教育制度の基本 小テストを実施。予習・復習:テキストの第10章「教育制度の基本」を読む。 11. 教育の法律と行政 予習・復習:テキストの第11章「教育の法律と行政」を読む。 12. 諸外国の教育制度 予習・復習:テキストの第12章「諸外国の教育制度」を読む。 13. 教育実践の基礎 予習・復習:テキストの第13章「教育実践の基礎」を読む。 14. さまざまな教育実践 予習・復習:テキストの第14章「さまざまな教育実践」を読む。 15. 生涯学習社会における教育の現状と課題 予習・復習:テキストの第15章「生涯学習社会における教育の現状と課題」を読む。 		
評価方法	小テストおよび期末試験(100点)。		
テキスト *必ず購入	児童育成協会監修、矢藤誠慈郎・北野幸子編集『教育原理』(新基本保育シリーズ2)中央法規、2019年。(2,200円)		
参考書 *必要に応じ購入	吉岡良昌・大川 洋『いのちを育む教育学』春風社、2008年。		

科目名	子ども家庭福祉	授業形式	講義
教員名	鈴木良東	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	子ども家庭福祉の基礎的理解と、社会的な背景における課題と解決策について学習する		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭福祉の理念・制度・方法について、講義だけではなく、統計資料や新聞記事、映像等を活用しながら、討議をし、理解を深める。 年に2回程度小テストを行い、到達度を確認する。 児童福祉施設等職員をゲストティーチャーとして招き、子ども家庭福祉の理解を深める。 		
授業の到達目標(ねらい)	子ども家庭福祉の理念・制度・方法について理解し説明できる。 保育士として、子どもだけではなく、家庭もふくめた支援が実践できるようにする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 子ども家庭福祉の理念 現代社会と子ども家庭福祉 子どもの人権擁護と法制度 子ども家庭福祉の歴史の変遷と先駆者 子育て施策の変遷 母子保健の制度と今日的役割 児童健全育成の理解 子ども家庭福祉の施設と専門職 児童虐待への対応 貧困家庭、外国籍の子どもと家庭への支援 社会的養護の理解 障害のある子への対応 少年非行等への対応 試験とまとめ 子ども家庭福祉の現状と課題 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業内での取り組み(積極的な取り組み、発言内容) 10% レポート 10% 試験 80% 		
テキスト *必ず購入	子ども家庭福祉 (最新保育士養成講座) 全国社会福祉協議会		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	社会福祉	授業形式	講義
教員名	平野 亜紀	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	社会福祉の意義・福祉制度の全体像を理解する。		
授業の概要	現代における社会的諸課題について学びながら、どのような背景から問題が生じているのか、解決には何が必要となるのかを生活主体である自分に引きつけて考えられるようにする。また、保育士という専門職が、支援当事者としてどうあるべきかについても、自分自身で考える機会としたい。		
授業の到達目標 (ねらい)	支援を必要とする人の社会的背景と支援のあり方について学ぶ。 社会福祉制度の1つである保育現場において、保育士に求められる役割について考える。		
授業計画	1. 社会福祉の理念と歴史の変遷		
	2. 子ども家庭支援と社会福祉		
	3. 社会福祉の制度と法体系		
	4. 社会福祉財政と実施機関、社会福祉施設等		
	5. 社会福祉の専門職		
	6. 社会保障および関連制度の概要		
	7. 相談援助の理論		
	8. 相談援助の意義と機能		
	9. 相談援助の対象と課程		
	10. 相談援助の方法と技術		
	11. 社会福祉における利用者の保護に関わるしくみ		
	12. 少子高齢化社会における子育て支援		
	13. 共生生活の実現と障害者施策		
	14. 筆記試験		
	15. まとめ 在宅福祉・地域福祉の推進、諸外国の社会福祉の動向		
評価方法	授業への参加態度(50%) 筆記試験(50%)		
テキスト *必ず購入	「新基本シリーズ 4 社会福祉(第2版)」中央法規		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	子ども家庭支援論	授業形式	講義
教員名	大澤 千佳子	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	子ども家庭支援の意義と役割を理解し、具体的支援の内容を学んでいきます。		
授業の概要	子どもや家庭を取り巻く環境の変化によって、子どもの生活や育ちにつながる課題が生まれています。保護者が子どもを育てていくために必要な様々な力も弱められています。そのような中で子ども家庭支援の必要性を理解し、実践へと繋げていきます。		
授業の到達目標 (ねらい)	①子育て家庭に対する支援の意義と目的を理解する。 ②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と内容について理解する。 ③支援の制度について理解する。 ④支援が目指す方向について理解して、実践につなげる。		
授業計画	1. オリエンテーション 2. 子ども家庭支援の目的と機能 3. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 4. 子どもの育ちの喜びの共有 5. 子育てを自ら実践する力の向上への支援 6. 保育士に求められる基本的態度 7. 家庭の状況に応じた支援 8. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 9. 子ども家庭支援の内容と対象 10. 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 11. 地域の子育て家庭への支援 12. 要保護児童及びその家庭に対する支援 13. 子育て支援に関する課題と展望 14. 試験 15. まとめと振り返り		
評価方法	提出課題・授業参加姿勢・試験結果		
テキスト *必ず購入	新基本保育士シリーズ5 子ども家庭支援論 中央法規		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	社会的養護 I	授業形式	講義
教員名	松田 雄年	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	児童福祉法の改正から「新しい社会的養育ビジョン」へ、そして都道府県社会的養育推進計画策定を通じて(児童養護施設から見える今後の「社会的養護」在り方)		
授業の概要	<p>改正「児童福祉法」を中心に、時事の新聞記事等を通じ、社会的養護の現状を提供することによって、各福祉施設の日常生活支援の状況とその背景を想像する。</p> <p>そして改正児童福祉法から、更なる提言の「新しい社会的養育ビジョン」を経て「都道府県社会的養育推進計画」の策定を通して、社会的養護がどの様に変革されようとしているのか、その制度や法体系、また歴史的変遷を体系的に知ることで、家庭ではない各福祉施設で生活している子どもたちへの思慮や特性を理解し、相応しい保育士像を学習する。</p> <p>また“感じる心”、“伝える手段”、“推察する思考”を刺激し、多角的に考えられるようにする。</p>		
授業の到達目標(ねらい)	<p>理念が明確化された「改正児童福祉法」から、社会的養護の子どもたちの現状と歴史、児童福祉施設の意味と現状を理解し、「新しい社会的養育ビジョン」、「社会養育推進計画」を通して、今後の将来像を理解する。</p> <p>本来子どもたちは家庭で生活し、諸事情で施設生活を余儀なくされ、その本来あるべき姿の代替である施設の意味と、権利擁護や法制度等を通じて、時事問題になっている虐待の実情と防止の観点から、社会的養護の対象や形態、そして現状と課題を理解し、それらに関わる施設等で働くべき専門職の資質を獲得する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 社会的養護 I とは… オリエンテーション(社会的養護を学ぶ意義 少子高齢化の現状と社会的養護の子ども達の現況を知る) 子どもの権利擁護 現代社会の病理 社会環境の推移 人権擁護 親と子どもの関わり方 子どもの育ちと社会の役割 児童養護の歴史 児童養護の歴史的変遷 先駆者の取り組みと児童福祉施設の歴史 障害児への救済活動 家庭的養護 施設養護とホスピタリズム 家庭養護と施設養護 家庭的養護 保護的福祉から支援的福祉へ 児童福祉施設 子ども達のための施設養護の体系と種類 施設養護の役割と現状 名称変更 個別化と自立支援 里親・養子制度 児童福祉法の改正と家庭養護 親権 施設と地域 施設と里親 施設と家庭 フォスターリング機関 児童福祉施設職員 児童福祉施設職員としての被虐待児への対応 役割分担と職能別職員 多様な専門職 心理とFSW 虐待/施設内虐待 児童虐待の種類 施設内虐待の実態 マルトリートメント 児童相談所の現状と189(いちはやく) 施設職員の資質 施設援助者としての資質と専門性 各分野の倫理綱領 その現実的負担と喜び 職員研修 専門的援助技術 施設援助者としての理念と援助技術 家庭復帰 施設養護中心から家庭養護の推進へ 組織とチームワーク 組織活動の基本 問題解決とチームワーク グループワーク スーパービジョンの必要性と役割 施設の記録 児童票 自立支援計画書 育成記録 アドミッションケア リービングケア アフターケア 地域福祉 社会的養護と地域福祉 ボランティア活動と受け入れ 施設機能の開放 児童家庭支援センター 今後の社会的養護 施設養護の課題 社会的養護の将来・未来像 まとめ 保育士の役割と責任 福祉施設の保育士としての役割と支援 社会における保育士のあるべき姿と責任 		
評価方法	テスト(40%)・レポート(30%)・授業態度及び振り返りシート(30%)		
テキスト *必ず購入	図解で学ぶ保育『社会的養護 I』原田旬哉・杉山宗尚 編著 萌文書林		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	教職概論	授業形式	講義
教員名	石河 信雅	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	教育の基礎的理解に関する科目であり、幼稚園教諭と保育者のための教職概論		
授業の概要	<p>教育の現状を理解するとともに課題を捉え、教職の意義、教師の役割を考える。 また、求められる教師像をもとにその資質や能力について学び、自己形成を図る。 さらに教師としての職務を遂行するための姿勢や能力の開発、実践力について考え、 自己の未来像を築く。 *授業中に毎回確認テストを行う。</p>		
授業の到達目標(ねらい)	<p>1.教職の意義、教師の仕事と役割、教師の専門性、様々な連携による教育の在り方などについて理解を深める。 2.教育を取り巻く現状と課題を捉え、教職にあるものとしての倫理観、責任感、資質と能力などについて考え、自己形成を図る。 3.理想的な教師像を探求するとともに、自己課題の発見とその解決能力を身に付ける。</p>		
授業計画	<p>1. 人間形成と教育</p> <p>2. 人間の成長と教育の必要性</p> <p>3. 人間の成長と家族・共同体</p> <p>4. 教師としての資質・能力</p> <p>5. 教職の意義と教師の仕事</p> <p>6. 現代社会と子ども・子供</p> <p>7. 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園と小学校との接続</p> <p>8. 多様なニーズに応じた教育について</p> <p>9. 教育相談的手法を用いた援助の方法</p> <p>10. 学校の職員と組織について(チーム学校など)</p> <p>11. 学校を支える人々・地域社会との関係など</p> <p>12. 教師と法律について</p> <p>13. 教育改革とこれからの教育について</p> <p>14. 教職の専門性と研修について</p> <p>15. 授業の振り返り</p>		
評価方法	<p>1. 授業中の態度20%</p> <p>2. 授業中の確認テスト・コメントペーパー20%</p> <p>3. 試験60%</p>		
テキスト *必ず購入	「通常学級における特別支援教育の視点に立った学級経営」(学苑社)		
参考書 *必要に応じ購入	授業中に必要に応じて紹介する。		

科目名	教育保育社会学	授業形式	講義
教員名	小林 恵	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	教育保育社会学		
授業の概要	保育・教育に関する多様なニーズの存在や、保育者としての職務を理解し、園や学校の危機管理体制や事故対応などについての具体的な取り組みにも触れる。		
授業の到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・変わりゆく社会の状況を理解し、保育・教育への影響や課題及び対応策について理解する。 ・危機管理・安全教育の重要性について、基礎的な知識を身につける。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを取り巻く様々な環境の変化と保育者の役割 2. グローバル化と多文化理解 3. 子どもの生活の変容について 4. 園・学校における安全管理と危機管理 5. 生活安全・交通安全・災害安全を踏まえた安全上の課題 6. 事故や災害に対する園や学校の危機管理体制のあり方と対応策 7. 家庭教育と幼児教育①幼児教育をめぐる近年の変化 8. 家庭教育と幼児教育②子育て不安 9. 家庭教育と幼児教育③小1プロブレム 10. 子どもの貧困について(映像を使用) 11. 子どもの虐待について 12. 園を取り巻く地域との連携、協働による保育・教育活動の意義 13. 子ども自らが様々な体験を通して得る学びの変化① 14. 子ども自らが様々な体験を通して得る学びの変化② 15. まとめ(これまでの授業内容の振り返り) 		
評価方法	定期試験(60%)、受講態度、個人発表、課題提出(40%)から総合的に評価する。		
テキスト *必ず購入	適宜プリントを配布		
参考書 *必要に応じ購入	特になし		

科目名	保育者論	授業形式	講義
教員名	二階堂 邦子	授業区分	必修
年次配当	2年次後期	単位数	2単位
授業表題	保育者論		
授業の概要	保育者とは何か。保育者の専門性、保育者の役割、責任、保育者の制度的な位置づけを学び、自分がめざす保育者像を探求する		
授業の到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の役割、責任を知る ・現代社会において求められる保育者の専門性を学ぶ 		
授業計画	1. 保育者になるということ		
	2. 保育者の制度・その位置づけ		
	3. 保育者の資格・要件		
	4. 子ども観・保育観		
	5. 保育者の役割・専門性		
	6. 幼稚園での一日の流れ		
	7. 保育所・認定こども園での一日		
	8. 保育計画		
	9. 保育の実践		
	10. 保育の記録		
	11. 評価・省察、質の向上		
	12. 保育の協働・組織・連携		
	13. 保育者の倫理		
	14. 家庭・保護者の支援		
	15. 保育者の専門性の向上		
評価方法	定期試験、子どものあそびの観察記録		
テキスト *必ず購入	保育学のはじめの一步 一おさなごにまなぶ一		
参考書 *必要に応じ購入	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		

科目名	モンテッソーリ教育概論	授業形式	演習
教員名	丸木 佳里	授業区分	選必
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	モンテッソーリ教育概論		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・モンテッソーリ教育についての導入 ・モンテッソーリ教育に興味を持つ ・モンテッソーリ教育の活動を体験する 		
授業の到達目標(ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. モンテッソーリ教育について知る 2. モンテッソーリ教育に興味を持つ 3. モンテッソーリ教育の活動を体験する 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. モンテッソーリってなに？(モンテッソーリ教育の始まりとその広がり) 2. マリア・モンテッソーリ博士の生涯／日本への普及 3. 吸収する精神／敏感期 4. モンテッソーリ教育的子どもとの関わり 5. 自由と制限 6. 感覚の洗練日(教具体験) 7. モンテッソーリ教育に対するよくある質問(前半) 8. 発達 の 四 段 階 9. 大人 の 準 備 と 役 割 10. 正常化と逸脱 11. 日常生活の練習(活動紹介) 12. 保護者対応(よくある質問) 13. 観察 14. モンテッソーリ教育に対するよくある質問(前半) 15. まとめ 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回提出必須のレポート内容評価 ・レポート内の質問や考察からの授業態度 ・授業参加状況 		
テキスト *必ず購入	プリント		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	フレール教育概論	授業形式	
教員名			
年次配当			
授業表題	今年度は開講しません。		
授業の概要			
授業の到達目標 (ねらい)			
授業計画			
評価方法			
テキスト *必ず購入			
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	キリスト教保育	授業形式	講義
教員名	石川かおる	授業区分	選修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	キリスト教保育		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教保育について、テキスト『キリスト教保育50の質問』や、さまざまな資料を用いて、授業を進める。 ・授業の中で、実際の子どもの姿や保育実践事例に触れながら、キリスト教保育を具体的に学ぶ。 		
授業の到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教保育とは何かを学び、キリスト教保育の目的、内容等を理解する。 ・実際の保育の12ヶ月、子どもの姿から学び、理解する。 ・また、キリスト教保育で大事にしている礼拝や行事を知り、具体的な指導について学ぶ。 ・キリスト教保育の授業を通して、保育の楽しさや子どもの面白さを知り、キリスト教保育に興味・関心をもつ。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 講義の進め方、テキストの使い方等について説明する 2. キリスト教保育について ・キリスト教保育の4月 3. 子どもと守る礼拝について ・キリスト教保育の5月 4. 保育実践からの学び(環境構成) ・キリスト教保育の6月 5. 保育実践からの学び(遊び) ・キリスト教保育の7・8月 6. 保育実践からの学び(環境) ・キリスト教保育の9月 7. 保育実践からの学び(生活) ・キリスト教保育の10月 8. 保育実践からの学び(文化) ・キリスト教保育の11月 9. キリスト教保育の行事と日本の伝統行事 ・キリスト教保育の12月① 10. キリスト教保育の子ども理解 ・キリスト教保育の12月② 11. キリスト教保育の子ども理解 ・キリスト教保育の1月 12. キリスト教保育を支える保育者の存在 ・キリスト教保育の2月 13. 保護者と共に造るキリスト教保育 ・キリスト教保育の3月 14. 地域社会との関わり ・教会や子育て支援の関わりから 15. 授業のまとめ ・授業の振り返り 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み(40%)・授業内提出レポート(30%)・最終課題レポート(30%) 		
テキスト *必ず購入	*『キリスト教保育50の質問』キリスト教保育連盟発行		
参考書 *必要に応じ購入	『新キリスト教保育指針』『キリスト教保育ハンドブック』『幼児さんびか(普及版)』 『幼児さんびかⅡ(普及版)』キリスト教保育連盟発行『聖書』*必要箇所をプリント配布予定		

科目名	保育の心理学	授業形式	講義
教員名	柳生崇志	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	乳幼児の心身の発達理解		
授業の概要	<p>子どもの心身の発達が保育場面における生活や遊びの中でどのように育まれるのかを学び、その発達過程を理解し支援するための知識や方法を習得する。テキスト、スライド、映像教材などを用いながら、各回の授業で設定された課題(実演、ロールプレイング、ディスカッション、小レポートなど)に取り組む。各種実習および就職において実際に子どもと接した時に、子どもの発達の状態や過程が理解でき、適切な支援を行うための基礎力を身につけ、その力を発展させるために主体的に考え学び続けようとする態度を形成する。</p>		
授業の到達目標(ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の心身の発達や保育実践に関わる心理学的知識を身につけ、個に応じた保育を考えて実践する力をつける。 2. 生涯発達の観点から発達過程や初期経験の重要性について理解する。 3. 乳幼児の心身の発達を理解する方法がわかる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(受講案内)、生涯発達心理学の基礎：ライフサイクルと発達課題 2. 胎児期・乳児期の発達：身体運動の発達と社会性の芽生え 3. 幼児期の発達①：身体運動発達 4. 幼児期の発達②：認知発達 5. 幼児期の発達②：社会性の発達 6. 児童期から青年期の発達：社会性・道徳性の発達と知識の獲得 7. 学習理論の基礎：行動的アプローチと認知的アプローチ 8. 学習の動機づけ：内発的動機づけと外発的動機づけ 9. 個性と個人差：知能、認知、パーソナリティ 10. 学習指導：プログラム学習と発見学習 11. 問題解決と推理：認知処理過程と記憶表象 12. 測定と評価：心理検査(性格検査、発達検査、知能検査)と評価法 13. 発達課題に応じた援助とかわり 14. 乳幼児の心身の発達のまとめ 15. 全体の振り返り、各種課題・テスト等のフィードバック 		
評価方法	<p>期末試験および授業中に課す各種課題による総合評価 総合評価(成績) = 期末試験(50%) + 各種課題・小テスト(複数合計40%) + 受講態度(10%)</p>		
テキスト *必ず購入	井梅由美子・渡辺千歳編著. 『はじめて学ぶ心理学』. 大学図書出版.		
参考書 *必要に応じて購入	必要に応じて授業時に案内します。		

科目名	臨床心理学	授業形式	演習
教員名	柳生 崇志	授業区分	選必
年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	幼児教育・保育に役立つ臨床心理学概論		
授業の概要	<p>本演習では、臨床心理学の成り立ちを理解しながら、いくつかの代表的な心理療法の理論と実際を学ぶ。臨床心理学と心理療法は、その時代や地域が抱える諸問題と向き合い、支援し、解決することを目指しながら発展を遂げ、現在ではその対象となる問題は、医療や教育、保育、産業等の幅広い領域となってきた。さまざまな臨床現場でどのような理論や実践が展開されているのかを考えながら、とくに幼児教育・保育の現場が抱える課題に取り組むための臨床心理学的方法について、各種ロールプレイやアクティビティを通して学ぶこととする。</p>		
授業の到達目標(ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学の基礎的知識を理解する。 2. 幼児教育・保育の領域における具体的事例について理解し、基本的な技法を用いることができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(受講案内), 臨床心理学とは何か? 2. 臨床心理学の成り立ち 3. 心理療法① 精神分析理論 4. 心理療法② クライアント中心療法 5. 心理療法③ 認知行動療法(1) 6. 心理療法④ 認知行動療法(2) 7. 心理療法⑤ その他の心理療法 <小テスト①(心理療法)> 8. アセスメントの理論と技法① 9. アセスメントの理論と技法② 10. アセスメントの理論と技法③ <小テスト②(アセスメント)> 11. 発達臨床心理学① 発達障害 12. 発達臨床心理学② 精神障害 13. 発達臨床心理学③ 教育相談とスクールカウンセリング <小テスト③(発達臨床心理学)> 14. 臨床心理学と心理療法のまとめ 15. 全体の振り返り, 各種課題・テスト等のフィードバック 		
評価方法	<p>期末試験および授業中に課す各種課題による総合評価 総合評価(成績) = 期末試験(50%) + 各種課題・小テスト(複数合計40%) + 受講態度(10%)</p>		
テキスト *必ず購入	<p>スーザン・レウェリン, ケイティ・アフエスーヴァン・ドーン著, 下山晴彦 編訳. (2019). 『臨床心理学入門』. 東京大学出版会.</p>		
参考書 *必要に応じ購入	<p>必要に応じて授業時に案内します。</p>		

科目名	子ども家庭支援の心理学	授業形式	演習
教員名	柳生崇志	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	子ども家庭支援の心理学		
授業の概要	<p>本講義では、子どもの発達に関する心理学的な知見を学ぶ。 子どもの発達は家庭や社会の中でダイナミックに変化する。 子どもと家族・家庭との関係について生涯発達の視点から深く学び、子どもの育ちを支える家庭や社会のさまざまな問題について検討する。</p>		
授業の到達目標 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する基礎的な知識を獲得し、乳幼児期の経験や発達課題等について理解する。 2. 親子関係や家族関係等について発達の観点から考え、家族・家庭の意義や機能を理解する。 3. 子どもと家庭をとりまく社会的状況と課題について考え、理解する。 4. 子どもの心の健康の問題がわかる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(受講案内)、親子関係・家族関係と生涯発達の考え方 2. 乳幼児期の子どもの発達と家庭 3. 児童期の子どもの発達と家庭 4. 青年期以降の発達と家庭 <小テスト①(生涯発達と家庭の関係)> 5. 家族・家庭の意義と機能 6. 親子関係・家族関係の理解 7. 子育て家庭をとりまく社会的状況と課題 <小テスト②(家族・家庭の理解)> 8. ライフコースと仕事・子育て 9. 多様な家庭とその理解 10. 発達支援が必要な子どもと家庭の理解 11. 子どもの生活・生育環境とその影響 <小テスト③(子育て家庭に関する現状)> 12. 子どもの心の健康問題 13. 災害、事故、事件と子どもの心の問題 14. 「子ども家庭支援の心理学」全体のまとめと振り返り 15. 子ども家庭支援をめぐる現代の社会的状況と課題 		
評価方法	期末試験および授業中に課す各種課題による総合評価 総合評価(成績) = 期末試験(50%) + 各種課題・小テスト(複数合計40%) + 受講態度(10%)		
テキスト *必ず購入	大倉得史・新川泰弘 編著. (2020). 『子ども家庭支援の心理学入門』, ミネルヴァ書房.		
参考書 *必要に応じ購入	必要に応じて授業時に案内します。		

科目名	子どもの理解と援助	授業形式	演習
教員名	柳生崇志	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	子どもの理解と援助		
授業の概要	<p>本演習では、子どもをよりよく理解し、適切な援助が行えるようになるための基本的な知識や方法を学ぶ。 なぜ、個に応じた援助が必要なのか、どのようにすれば子ども一人一人の発達の様子や体験・学びの様子を理解できるのかということについて、保育現場の事例を検討する。 各回の授業内容やテーマに応じて、ロールプレイング、ディスカッション、ディベートゲーム等を通して体験的に学ぶ。</p>		
授業の到達目標 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを理解することの意義と基本的態度を理解する。 2. 子どもを理解するためのさまざまな視点がわかる。 3. 観察・記録・評価などの子どもを理解するための具体的方法がわかる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(受講案内)、保育における子どもの理解とは？ 2. 子どもの理解に基づく保育の展開 3. 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり <小テスト①(子どもの発達や学びの把握)> 4. 子どもの生活や遊び 5. 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 6. 集団の中の子どもの育ち 7. 葛藤やつまづき 8. 保育の環境の理解と構成 9. 環境の変化や移行 <小テスト②(子どもを理解する視点)> 10. 子どもを理解するための方法: 観察, 記録, 省察, 評価 11. 職員間, 保護者との対話 12. 発達の課題に応じた援助と関わり 13. 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 <小テスト③(子どもを理解する方法と援助)> 14. 「子どもの理解と援助」全体のまとめと振り返り 15. 発達の連続性と就学への支援 		
評価方法	<p>期末試験および授業中に課す各種課題による総合評価 総合評価(成績) = 期末試験(50%) + 各種課題・小テスト(複数合計40%) + 受講態度(10%)</p>		
テキスト *必ず購入	<p>松本峰雄 監修, 伊藤 雄一郎 他著. (2021). 『子どもの理解と援助 演習ブック』. ミネルヴァ書房.</p>		
参考書 *必要に応じて購入	<p>必要に応じて授業時に案内します。</p>		

科目名	子どもの保健	授業形式	講義
教員名	高田 由香理	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	子どもの保健の知識を身につける		
授業の概要	<p>子どもの健康増進を目指す保健活動を理解する。子どもの発育・発達と、乳幼児期の病気について学ぶ。また、母子保健の学びでは、母体の健康から、胎児期、新生児の生理機能や繋がりを理解する。さらに、子どもの精神面の発達や社会性の発達の学びを深め、近年の子どもを取り巻く健康問題について考える。</p>		
授業の到達目標 (ねらい)	<p>子どもの発育・発達と、子どもの身心の特徴を理解する。 子どもによくみられる病気や心の病についての知識や予防する方法を身につける。 身近な子どもの健康問題に興味や関心を持つようになる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの保健活動と意義 健康水準の指標から子どもの健康を考える 2. 子どもの保健統計から、近年の子どもたちの健康状態を読み取る(分析) 3. 妊娠の過程から母体の健康について 妊娠の適齢期、妊娠の過程(初期、中期、後期)、分娩と出産 4. 胎児期の発育・発達について 母子手帳の大切さ、胎生期に影響する要因(薬剤や環境) 5. 新生児と乳児の生理機能の発達について 器官、組織、感覚系の発達 6. 幼児期と学童期の健康 軽度知的障害、発達障害、いじめの構造 7. 子どもの社会性の発達 幼児期の集団遊びの重要性、笑いと健康を考える 8. 子どもの心の発達1 子どもによくみられる心身症、不安障害、パニック他 9. 子どもの心の発達2 子どもの虐待、子どもの情緒の安定を考える 10. 子どもの病気の特徴と症状1 子どもの健康状態の把握、主な症状と対処 11. 子どもの病気の特徴と症状2 アレルギー疾患、喘息、慢性疾患の特徴 12. 子どもによくみられる感染症1 子どもの感染症の特徴、細菌性の感染症、ウイルス性の感染症 13. 子どもによくみられる感染症2 感染症の予防と適切な対応、(小テストの実施) 14. 健康な子どもを育てる保育の実践 ドイツの森の中で保育をする幼稚園の紹介 15. 子どもの保健の振り返りとまとめ 保育者間の協力体制と確認 		
評価方法	期末試験80%・小テスト20%		
テキスト *必ず購入	授業で現場で役に立つ 子どもの保健テキスト 改訂第2版(診断と治療社)		
参考書 *必要に応じて購入	子どものからだと心 白書2023 (ブックハウス・エイチディ)		

科目名	子ども食と栄養	授業形式	講義・演習
教員名	櫛木祥子	授業区分	必修
年次配当	2年次通年	単位数	2単位
授業表題	食の重要性を理解し、子どもの「食を営む力」の育成に必要な知識を身につける		
授業の概要	乳幼児期から思春期の食習慣・栄養摂取の状態が、生涯にわたる食習慣や健康の礎になることを理解し、望ましい食生活のあり方に関する知識を学ぶ。また、子供に食の楽しさ・大切さを伝える力を身につける。		
授業の到達目標 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食と栄養に関心を持ち、基礎知識をしっかり身につける 2. 自分自身の食生活の重要性を理解し、適切な食生活を営めるようになる。 3. 子どもが食に興味をもち、しっかりした食習慣を身につけることを促す方法を考える 		
授業計画	1. 子どもの健康と食生活の意義	16. 乳幼児の食と栄養①	
	2. 栄養に関する基礎①	17. 乳幼児の食と栄養②	
	3. 栄養に関する基礎②	18. 乳幼児の食と栄養②	
	4. 栄養に関する基礎③	19. 乳幼児期の食と栄養③	
	5. 栄養に関する基礎④	20. 学童期・思春期の食と栄養①	
	6. 栄養に関する基礎⑤	21. 学校給食	
	7. 栄養に関する基礎⑥	22. 特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養	
	8. 食品の性質①	23. 家庭や児童養護施設における食と栄養	
	9. 食品の性質②	24. 調理の基礎③	
	10. 食品の性質③	25. 調理の基礎④	
	11. 調理の基礎①	26. 食育①	
	12. 調理の基礎②	27. 食育②	
	13. 前期のまとめ①	28. 後期のまとめ①	
	14. 前期のまとめ②	29. 後期のまとめ②	
	15. 食品の性質④	30. 食育③	
評価方法	期末試験60%・小テスト20%・授業へのとりくみ(レポート・課題)20%		
テキスト *必ず購入	子どもの食生活 《第6版》 ななみ書房		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育の計画と評価	授業形式	講義
教員名	島田 里香	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	保育の計画と評価		
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、保育内容の充実に向けての保育の計画と評価について理解する。教育課程及び全体的な計画、指導計画の編成について基本的な考え方を理解し、指導案の計画、実践、評価、改善を体験的に学び、実践に生かす。		
授業の到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育課程」・「全体的な指導」と指導計画について理解する。 ・幼稚園、保育所、認定こども園における保育の計画の作成と展開について理解を深める。 ・幼稚園、保育所、認定こども園における保育の評価について理解する。 ・指導計画を踏まえ、幼児理解や保育者の援助について実践力を身につける。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と計画(オリエンテーション) 2. 教育課程、全体的な計画について 3. 指導計画について 4. 幼稚園における教育課程と指導計画について 5. 保育所における全体的な計画と指導計画について 6. 認定こども園における全体的な計画と指導計画について 7. 指導計画の作成の基本と方法について 8. 指導計画の立案① 9. 指導計画の実践と評価 10. 保育における評価について 11. 指導計画の立案② 12. 指導計画の立案③ 13. 指導計画の実践、評価、改善① 14. 指導計画の実践、評価、改善② 15. 授業内容の再確認とまとめ 		
評価方法	①定期試験(50%)②授業参加状況(積極性や協調性等)(30%)③授業課題のレポートの提出(20%)		
テキスト *必ず購入	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育課程・保育の計画と評価 書いて学べる指導計画」岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正著 萌文書林 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育内容総論	授業形式	演習
教員名	加納 拓朗	授業区分	必修
年次担当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	保育内容の各論で学んだことを総括し、保育者として子どもたちの遊びや生活を支えるためにすべきことを、事例や実践から理解し考察する。		
授業の概要	保育関係法令の歴史の変遷を知り、保育におけるカリキュラムの構成を理解する。 「環境を通して行う保育」「遊びによる総合的な保育」について、他者との共有を行いながら考察を深める。 「発達と学びの連続性」を確保するために必要な、家庭、地域、専門機関や小学校との連携の意味を理解する。 子どもを取り巻く環境の変化と保育に求められるものとの関わりを考察する。		
授業の到達目標 (ねらい)	子ども主体の保育の意義を理解し、保育場面を想定した指導計画を立案する力を身に付ける。 子どもの発達や学びの連続性を理解し、子ども・保護者・保育者の立場から専門機関との連携の重要性を理解する。 国内外の保育や子育ての様子を見て、保育者としてできることを考察する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 保育内容の各論と総論 2. 保育のプロセス 計画・実施・評価・改善 3. 保育内容の変遷 4. 保育・子育て関係法令 5. 子ども個人を尊重する 子どもの権利 6. 環境を通して行う保育 7. 生活や遊びによる総合的な学び 8. 生活や発達の連続性を考慮した保育 9. 指導計画の立案と模擬保育 10. 家庭との連携 11. 地域との連携 12. 小学校との連携 13. 専門機関との連携 障害・虐待、児童相談所 14. 世界の保育・教育 レッジョエミア、フリースクール 15. 多様性や多文化と保育 		
評価方法	授業態度、小レポート(30%) 試験・レポート(40%) 提出課題・発表(30%)		
テキスト *必ず購入	垂見直樹(2020)『豊かな育ちのための保育内容総論』ミネルヴァ書房		
参考書 *必要に応じ 購入	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針解説」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省		

科目名	科目名	健康指導法	授業形式	演習
教員名	教員名	高橋 裕勝	授業区分	必修
年次配当	年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	授業表題	乳幼児の健康に関わる生活や遊びについて、領域「健康」の視点をもとに考えていく。		
授業の概要	授業の概要	本科目は、乳幼児の生活習慣や心身の発達の特徴と「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」にある領域「健康」を関連づけて学ぶ。子どもの身体を育む生活や運動遊びについて、具体的な保育の実践方法を学ぶ。		
授業の到達目標(ねらい)	授業の到達目標(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の健康や安全な生活に関する基礎的事項について概説できる。 ・領域「健康」の意義、ねらい及び内容、内容の取り扱いについて概説できる。 ・子どもの身体を育む生活や運動遊びについて、具体的な保育を構想できる。 		
授業計画	授業計画	1. ガイダンス 授業概要、評価方法		
		2. 領域「健康」 意義、ねらいと内容、内容の取り扱い		
		3. 身体と運動の発達 身長・体重、全身運動の発達		
		4. 情緒の安定 愛着、自己肯定感		
		5. 生活習慣の形成 食事、排泄、着脱、睡眠		
		6. 子どもの発達と事故 起こりやすい事故		
		7. 体力・運動能力の傾向 心の粘り強さ、体の動き		
		8. 運動能力低下の原因 園の環境、家庭の環境		
		9. 運動指導の方向性 内発的動機づけ、自己決定、運動有能感		
		10. 乳児・1～2歳児の遊び 基本的な動作の獲得		
		11. ルールのある遊び 事例から育ちを読み取る		
		12. 道具を使った遊び 小型遊具、大型遊具		
		13. 園生活で育む生活習慣 基本的な生活習慣		
		14. 安全教育 リスクとハザード		
		15. まとめ 保護者の役割		
評価方法	評価方法	定期試験(50%)、課題(20%)、授業への積極的な取り組み(30%)		
テキスト *必ず購入	テキスト *必ず購入	『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康』無藤 隆 萌文書林		
参考書 *必要に応じ購入	参考書 *必要に応じ購入	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)幼稚園教育要領解説(文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)保育所保育指針解説(厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府)		

科目名	人間関係指導法	授業形式	演習
教員名	島田 里香	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	1単位
授業表題	人間関係指導法		
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」の内容を踏まえ、乳幼児期の保育における人とのかかわりを育むための保育内容や保育者の関わりについて実践的に理解する。		
授業の到達目標(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の特性を踏まえ、保育における領域「人間関係」の意義、ねらい、内容を理解する。 ・保育の中で子どもが人と関わることによって育まれる力について理解すると共に、保育者の関わりや役割について実践事例等を通して理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 領域「人間関係」のねらい・内容等について理解する。 3. 乳児期における人とのかかわりと保育者の援助について理解する。 4. 1歳～3歳未満児の人との関わりと保育者の援助について理解する。 5. 3歳児における人との関わりと保育者の援助について理解する。 6. 4歳児の人との関わりと保育者の援助について理解する。 7. 5歳児の人との関わりと保育者の援助について理解する。 8. 遊びの中での人とのかかわりについて理解する。－ルールのある遊びを通して－ 9. 遊びの中での人とのかかわりについて理解する。－イメージを共有する遊びを通して－ 10. 遊びの中での人とのかかわりについて理解する。－いざこざ・葛藤を通して－ 11. 遊び環境の工夫について理解する。 12. 保育における遊びの中で育まれる人間関係について事例分析・考察する。 13. 保育における遊びの中で育まれる人間関係について事例分析・考察する。 14. 保護者と保育者の人間関係について理解する。 15. 授業内容の再確認とまとめ 		
評価方法	授業参加状況(積極性や協調性等)(40%)、レポート(60%)		
テキスト *必ず購入	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」 菊地篤子 みらい ・幼稚園教育要領 ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	環境指導法	授業形式	演習
教員名	加納 拓朗	授業区分	必修
年次配当	1年時後期	単位数	1単位
授業表題	子どもたちが安心・安全な生活を送るために必要な環境構成や、配慮すべきことを学ぶ。		
授業の概要	教育要領、保育指針等に示された領域「環境」のねらい及び内容の理解を深める。 映像資料を用いて保育の様子を観察し、指導計画の立案や模擬保育を行うことで、具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。		
授業の到達目標(ねらい)	領域「環境」のねらい及び内容を理解し、保育場面を想定した指導計画を立案する力を身に付ける。 子どもの発達や学びの過程を理解し、模擬保育等の実践活動を通して保育者・子ども双方の視点から環境構成を考察・理解する。		
授業計画	1. オリエンテーション 領域「環境」のねらいと内容		
	2. 子どもの発達と「環境」		
	3. 現代社会における子どもを取り巻く環境		
	4. 指導計画の立案における環境の意味		
	5. 園生活と環境 保育室、園庭、園外保育		
	6. 子どもと物的環境		
	7. 子どもと人的環境		
	8. 数量・図形・標識・文字とのかかわり		
	9. 身近な物・自然物の活用① 計画、立案		
	10. 身近な物・自然物の活用② 素材収集、製作		
	11. 身近な物・自然物の活用③ 他者との交流、発表		
	12. 子どもの安心安全な生活のための環境構成		
	13. 環境から始まる遊び、遊びから学ぶ		
	14. 伝統行事・自然とのかかわり		
	15. 現代の子どもたちと環境の諸課題		
評価方法	受講態度(30%)、レポート・試験(40%)、発表(30%)		
テキスト *必ず購入	横山文樹 駒井美智子編著(2020)『保育を学ぶシリーズ③保育内容「環境」』 大学図書出版		
参考書 *必要に応じ購入	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針解説」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省		

科目名	言葉指導法	授業形式	演習
教員名	小林 恵	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	乳幼児の言葉を豊かに育むための保育者としての実践力を身につける		
授業の概要	保育現場において、子どもたちが様々な言葉教材に親しみながら豊かな言葉やイメージが広がり育まれるような環境のあり方や模擬保育に向けた具体的な指導方法について研究し実践力がつくようにする。子どもの発達に即した領域「言葉」のねらいや内容を踏まえた保育実践力を養うことを目指すために、具体的な事例や映像などを使用し、理解を深める。		
授業の到達目標(ねらい)	子どもの言葉に関する現状や課題を踏まえたうえで、言葉の意義について捉え、乳幼児の言葉の獲得過程を理解し、言葉の育ちを支える保育者としての意義について理解を深め、保育実践力を養う。また、乳幼児の豊かな言葉が育まれる保育教材を研究し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの言葉が豊かに育つための保育者の援助とは 2. 乳幼児期の特徴・言葉の発達過程について～映像資料や事例を通して、幼児の姿について理解を深める～ 3. 指導者として幼児の言葉環境に必要な心得や準備～具体的にどのようなことか事例をもとに考える～ 4. 乳幼児を対象とする「手遊び」の種類・特徴・子どもに与える効果 5. 乳幼児を対象とする「紙芝居」の種類・特徴・子どもに与える効果 6. 乳幼児を対象とする「絵本」の種類・特徴・子どもに与える効果① 7. 乳幼児を対象とする「絵本」の種類・特徴・子どもに与える効果② 8. 絵本の読み聞かせの実践① 9. 絵本の読み聞かせの実践② 10. 乳幼児を対象とする「ペープサート」、「エプロンシアター」の種類・特徴・演じる際の留意点 11. 乳幼児を対象とする「パネルシアター」、「素話」の種類・特徴・演じる際の留意点 12. 言葉に対する感覚を豊かにする保育①(さまざまな言葉遊びについての研究と実践Ⅰ) 13. 言葉に対する感覚を豊かにする保育②(さまざまな言葉遊びについての実践Ⅱ) 14. 現代社会と言葉～言葉を育む環境の変化～ 15. まとめ(これまでの授業内容の振り返り) 		
評価方法	定期試験(60%)、受講態度、個人発表、課題提出(40%)から総合的に評価する		
テキスト *必ず購入	子どもの育ちを支える 子どもと言葉 浅見 均編著 大学図書出版		
参考書*必要 に応じ購入			

科目名	表現指導法	授業形式	演習
教員名	吉川和希	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	子どもの表現について考え、具体的な計画や教材、援助などについて学ぶ。		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の実態や教科書等から、子どもの表現について考える。具体的な子どもの姿を想定し、実際に現場で用いられている素材や道具などを、子どもの目線で体験しながら学ぶ。 ・ 活動の具体的な状況や幼児の姿をイメージしながら、必要なモノ・イメージ・時間・場・保育者の援助等を、テキストや事例から考えたり、実践したりする。 ・ 教材を使って実際に子どもが活動する際や、活動によって現れる幼児の動き・表現を予想して、保育者の援助を考える。 		
授業の到達目標(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の実態や教科書等から子どもの表現を捉える。 ・ 保育の具体的な状況をイメージしながら、教材研究をしようとする。 ・ 子どもが表現あそびや表現活動をする際の環境の構成、教師の援助について考える。 ・ 学生自らが、自分の思いや考えを表し、表現しようとする。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 子どもの表現とは何かを考える。 2. 描画・造形表現① <講義・演習> テキストを通して学ぶ。3歳児を想定した教材を、実際に使って製作する。 3. 描画・造形表現② <講義・演習> テキストを通して学ぶ。4歳児を想定した教材を、実際に使って製作する。 4. 描画・造形表現③ <講義・演習> テキストを通して学ぶ。5歳児を想定した教材を、実際に使って製作する。 5. 描画・造形表現④ <講義・演習> テキストを通して学ぶ。5歳児を想定した教材を、実際に使って製作する。 6. 表現の場としての行事と学び②<演習> 作ったものを身につけたりなりきったりして、劇遊びを体験する。 7. 表現の場としての行事と学び①<講義> テキストを通して学ぶ。 8. 感覚を通して表現を楽しむ <演習> 小麦粉粘土を通して、教材作りや、感触を味わう経験をする。 9. 振り返り <レポート> これまでの学びを振り返り、自分の考えを表す。 10. 音楽表現① <講義・演習> テキストを通して学ぶ。発達に合った歌遊び・手遊びを実践する。 11. 音楽表現② <講義・演習> テキストを通して学ぶ。声や気持ちを共有する活動の様子を、事例を通して知る。 12. 身体表現③ <講義・演習> テキストを通して学ぶ。身体表現の創作を行う。 13. 実習に向けた準備・心構え<講義・演習> 14. まとめ <レポート> これまでの学びを振り返り、自分の考えを表す。 15. 子どもの表現と保育者の援助 <講義> 保育者の援助を、人的環境の視点から考える。 		
評価方法	指導案・作品提出(40%)、レポート(20%)、授業への参加態度(40%)		
テキスト *必ず購入	表現 日々わくわくを生きる子どもの表現(わかば社)		
参考書 *必要に応じ購入	遊びを中心とした保育－保育記録から読み解く「援助」と「展開」－(萌文書林)		

科目名	表現活動指導法A	授業形式	演習
教員名	角田 葵	授業区分	選必
年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	保育における音楽・造形・言葉・身体表現を身につける		
授業の概要	オリジナルの物語でミュージカルを制作し、発表する。その経験を通して表現力を養い、創造性を豊かにする。		
授業の到達目標 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな感性、表現力、創造性を養う。 2. 他者との関わりの中で協調性を持ち、一つの作品を作りあげる。 3. ミュージカルの制作方法を知る。 		
授業計画	1. オリエンテーション ミュージカルができるまでの過程や役割を考え、スケジュールを計画する。発表の題材になる物語や歌を探る。		
	2. 題材選定① 題材の候補を絞る。グループであらすじや設定を考える。		
	3. 題材選定② グループで考えたあらすじや設定を発表し、実現したい題材に投票をする。確定した題材の設定を深める。		
	4. 配役・係決め 準備段階における役割を決定し、係ごとに制作をはじめめる。		
	5. 制作と表現① 監督・脚本・音楽・振付・小道具・衣装が連携をとりながら制作を行う。		
	6. 制作と表現② 監督・脚本・音楽・振付・小道具・衣装が連携をとりながら制作を行う。		
	7. 制作と表現③ 監督・脚本・音楽・振付・小道具・衣装が連携をとりながら制作を行う。		
	8. 制作と表現④ 監督・脚本・音楽・振付・小道具・衣装が連携をとりながら制作を行う。		
	9. 立ち稽古① 演技・歌・合奏・ダンスの練習する。		
	10. 立ち稽古② 演技・歌・合奏・ダンスの練習する。		
	11. 立ち稽古③ 演技・歌・合奏・ダンスの練習する。		
	12. 立ち稽古④ 本番での役割を決める。演技・歌・合奏・ダンスの練習する。		
	13. リハーサル 衣装・小道具・大道具を用いて練習する。		
	14. ゲネプロ(通し稽古) 本番同様のゲネプロを行う。ゲネプロの映像を鑑賞し、改善を行う。		
	15. まとめ(本番) アルウィン祭で上演する。演習を通じて学んだことを共有する。		
評価方法	創作への参加(70%)、パフォーマンスの評価(30%)		
テキスト *必ず購入	プリント(適宜配布する)		
参考書 *必要に応じ購入	なし		

科目名	表現活動指導法B	授業形式	演習
教員名	橋本 夏夫	授業区分	選必
年次配当	2年次後期	単位数	1単位
授業表題	造形・描画などの実践を通して学生個々の表現の幅を広げ、子どもへの指導方法を学ぶ。 また、子どもと遊ぶために知っておきたい知識を身に着ける。		
授業の概要	本授業では、単に表現技術を習得するだけではなく、その技術や知識が子どもと共有する世界のどこに繋がっていくのかを考えて、実際の保育での活用方法を学びます。		
授業の到達目標 (ねらい)	子どもの意欲的な活動を引き出す方法や作品に現れた子どものこころの姿を感じ取れる力を養います。 また、生活の中の芸術性について考え、制作や描画の実践を通して子どもと時間を共有する方法や、子どもが持っている力を引き出す力を身に付けます。グループワークを通して他者との関係づくりや協働について学びます。		
授業計画	<p>1. ガイダンス 子どもと遊ぶために知っておきたいこと。 身近な素材で表現する・新聞紙遊び1・跳ね上げ遊びとキャッチボール・新聞紙遊び2・びりびり破きと積み上げ遊び。</p> <p>2. 新聞紙遊び3・身体を包んで遊ぶ（何かになりきるという子どもの持つ変身への願望を新聞紙で表現する）</p> <p>3. 新聞紙遊び4・新聞紙で野菜を作る（柔軟性のある素材としての新聞紙で表現する）</p> <p>4. 目に見えない素材で表現する・空気について知る。(ポリ袋で大きな風船をつくって飛ばそう1.)</p> <p>5. 目に見えない素材で表現する・(ポリ袋で大きな風船をつくって飛ばそう2.)</p> <p>6. 折り紙をつなげて遊ぶ・折り紙、澱粉糊、ハサミを使った表現・壁面制作につながる表現</p> <p>7. 講義:子どもの絵の発達段階を学ぶ・子どもの絵に現れる特徴を理解する。講義プリント配布</p> <p>8. ドーナッツふたつ・(興味のあるものを題材とした描画・クレヨンと水性絵の具の使い方)</p> <p>9. 講義:自然物を使った制作のために知っておきたいこと。地球の歴史と樹木について</p> <p>10. ドングリを使ってオブジェやリースを制作する。</p> <p>11. 透明な素材を使った表現（写し取りで人物の表情を描く。素材を感じながら表現方法の幅を広げる。）</p> <p>12. 講義:(復習)子どもの絵の発達段階を学ぶ・子どもの絵に現れる特徴を理解する。(到達度の確認)</p> <p>13. 振り返り(子どもと遊ぶために知っておきたいこと)振り返りプリント配布</p> <p>14. ※筆記(子どもの絵の発達段階)</p> <p>15. グループワーク、折り紙10種</p>		
評価方法	まとめの筆記、提出物、授業への取り組み、欠席日数の総合評価		
テキスト *必ず購入	毎回プリントを配布する。講義には別途講義用プリントを配布する。		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	音楽 I (理論)	授業形式	講義
教員名	藤岡 郁子	授業区分	選必
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	子どもたちに豊かで正しい音楽の指導できるように基礎理論を学ぶ		
授業の概要	幼稚園教諭や保育士を目指す者にとって不可欠な理論の基礎知識を習得するために、毎回復習のための小テストを行いながら理解を深めていく。 楽譜が直ぐに読めることを目標に、学んだ理論を音楽Ⅱ、Ⅲでも活かせるように連携して授業を進めていく。		
授業の到達目標 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 子どもたちにうたや合奏を教えるため、またピアノ伴奏をするために必要な基本的理論を学ぶ。 リズムや音楽理論の基礎を学ぶことによって、実際の保育現場で余裕を持って演奏できるようにする。 4種類の調の音階とカデンツを理解し、コードを使って簡単な伴奏付けができるようにする。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> これからの授業についての説明 直ぐに音符がよめるように、よく知っている曲で譜読みの練習をする 譜読みの練習を続けながら、音符や休符の長さを覚える① 譜読みの練習を続けながら、音符や休符の長さを覚える② 拍子(単純拍子、複合拍子)を理解する 変化記号(# b)等の音を変化させる記号を覚える 強弱記号の名称や意味を理解する 反復記号と略記の名称や意味を理解する 奏法を指示する記号の名称や意味を理解する① 速度記号と速度を変化させる記号を覚える 奏法を指示する記号の名称や意味を理解する② 長音階と短音階を理解する ハ長調のコード+7の和音を理解する 他の調(ト、ニ、ヘ長調)のコード+7の和音を覚える 簡単なコードの童謡に伴奏をつける 授業内容の確認と振り返り、まとめ 		
評価方法	授業の参加状況(30%)及び定期試験(70%)		
テキスト *必ず購入	「ジュニアクラスの楽典問題」(森本琢郎・池田恭子共著)ドレミ楽譜出版社		
参考書 *必要に応じ購入	プリント配布		

科目名	音楽Ⅱ(声楽)	授業形式	演習
教員名	藤岡 郁子	授業区分	選必
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	正確な音程で、いつでも歌える子どものうたのレパートリーを増やす		
授業の概要	<p>基本的な発声法や歌唱法を学び、アカペラでも正しいリズム、音程で、子どものうたを歌えるようにする。へ音記号で書かれた新曲を歌い、へ音記号に対する苦手意識を取り除き、音が直ぐに読めるようにする。正確なリズムが取れるように、毎週のグループ発表で学ぶ。優れたオペラやミュージカルを鑑賞することによって感性をみがく。</p>		
授業の到達目標(ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園や保育園でよく歌われる行事や季節のうた、子どものうた、新しいうたについて、自らが歌う経験を積む。 2. いつでも、どこでもうたえる曲を増やし、保育の現場で活用できる力を養う。 3. 歌うことの楽しさを子どもに伝えるために、自ら歌うことの楽しさを感じる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. これからの授業についての説明 正しい姿勢での発声法を学ぶ 2. 早口言葉などを使って滑舌をよくし、正しい発声法で歌う練習をする 讃美歌練習 3. 望ましい発声法で、正しい音程がとれるように練習する 讃美歌練習 4. リズム遊びと子どものうたを歌う オペラ鑑賞(DVD) 5. 正しいリズムと音程で手遊びのうた、季節のうたを歌う 6. 正しいリズムと音程で手遊びのうた、季節のうたを歌う 7. うた紙芝居制作の説明 8. 制作したうた紙芝居を演じる 9. ミュージックベルの奏法を学ぶ ミュージックベルの練習 10. 合唱曲を歌う 合唱曲をみんなで選ぶ ミュージックベルの練習 11. 合唱曲を歌う パートに分かれて合唱曲の練習 ミュージックベルの練習 12. 讃美歌(クリスマスのうた)の練習 合唱曲のパート練習・合同練習 ミュージックベルの練習 13. 合唱曲とミュージックベルの発表 14. オペラとミュージカルの違いについて学ぶ DVDにてオペラとミュージカルの視聴 15. 今までの授業の振り返り発表 		
評価方法	授業への参加状況(30%) 独唱、紙芝居の実技テスト(70%)		
テキスト *必ず購入	音楽Ⅲで使用する教科書、プリント		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育教材研究A	授業形式	演習
教員名	吉川和希	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	教材研究の意義を知り、幼児の実態や発達に応じた教材研究の方法について学ぶ。		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の実態と指導計画の関係の中で、教材について考える。 ・ 保育の場面や幼児姿を想定しながら、エプロンシアターの製作や実践を行う。 ・ 季節を楽しんだり、自然物を取り入れたりできる教材について、制作しながら学ぶ。 ・ 児童文化財について考え、絵本等の楽しさを自分自身が体験する。 		
授業の到達目標(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の実態や指導計画との関係の中で教材を捉え、保育の具体的な状況をイメージしながら教材研究をする。 ・ 教材を使って子どもが活動する際の教師の援助、子どもの表現に対する教師の援助について考えながら実践する。 ・ 素材の特性を学びながら、自分自身が楽しんで教材にかかわり、主体的に計画したり制作したりする。 		
授業計画	<p>1. オリエンテーション ・ エプロンシアターを通して教材を考える① <計画> 教材研究とは何をすることか、何のためにすることかを考える。 エプロンシアター(パネルシアター、ペープサート等視覚的教材)の意義や、演ずる際の環境構成、教材の活かし方を考える。</p> <p>2. エプロンシアターを通して教材を考える② <演習> エプロンシアター製作を通して、素材や道具と向き合う。</p> <p>3. エプロンシアターを通して教材を考える③ <演習> エプロンシアター製作を通して、素材や道具と向き合う。</p> <p>3. エプロンシアターを通して教材を考える④ <演習> エプロンシアター製作を通して、素材や道具と向き合う。</p> <p>4. エプロンシアターを通して教材を考える⑤ <発表・レポート> エプロンシアター(パネルシアター、ペープサート等視覚的教材)を通して行う幼児理解、教師の援助、評価方法を考える。</p> <p>5. 保育教材と季節① <講義> 自然と関わりながら遊ぶ幼児の姿を知り、自然現象や自然物の特性を知り、遊びや生活への活用について考える。</p> <p>6. 保育教材と季節② <演習> 自然物を使用した造形活動を計画する。</p> <p>7. 保育教材と季節③ <演習> 自然物を使用した造形活動の教材研究を行う。</p> <p>8. 保育教材と季節④ <演習> 自然物を使用して造形活動の教材研究を行う。</p> <p>9. 保育教材と季節⑤ <発表・レポート> 自然物を使用して行なった造形活動について振り返り、生活や遊びとの関連性や連続性を考える。</p> <p>11. 児童文化財① <講義> テキストから学ぶ。</p> <p>12. 児童文化財② <講義> テキストから学ぶ。</p> <p>13. 絵本と子ども <演習> 様々な絵本と出会いながら、保育の様々な場面(季節、行事、幼児の姿)との関連性を考え、共有し合う。</p> <p>14. まとめ <レポート・作品提出> これまでの授業を振り返り、自分の考えを書き表す。</p> <p>15. 情報通信技術(ICT)を活用した保育実践 <講義> 実際の保育現場でどのように情報通信技術(ICT)が活用されているのかを知る。</p>		
評価方法	指導案・作品提出(40%)、 レポート(20%)、 授業への参加態度(40%)		
テキスト *必ず購入	表現 日々わくわくを生きる子どもの表現(わかば社)		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育教材研究B	授業形式	演習
教員名	藤田 佳子	授業区分	選必
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	保育教材研究B		
授業の概要	<p>子どもの意欲を引き出し、学習する力や人間関係を築きために役立つ保育教材について学ぶ。 なかでもコミュニケーションツールとして日常保育で効果的に活用できる「パネルシアター」の技術を徹底的に身につける。 仕上げとして実践力をつけるために、子どもたちの前でパネルシアター上演を行う。</p>		
授業の到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びを豊かに展開していくための保育教材の知識や技術を習得する。 ・パネルシアターの楽しさの魅力を知り、制作とともに演じる力を身につけ、実践力をつける。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 保育教材としてのパネルシアター ～パネルシアターの基礎知識(鑑賞・解説)～ 「まんまるさん」制作① 2. 課題作品について(上演・解説) 自分の制作する作品選び 「まんまるさん」制作②・仕上げ 3. パネルシアターの制作① (作り方・下絵写し・着色1) 4. パネルシアターの制作②(着色2) 5. パネルシアターの制作③(着色3) 6. パネルシアターの制作④(着色4) 7. パネルシアターの制作⑤(縁取り・仕掛け①) 8. パネルシアターの制作⑥(仕掛け②) 9. パネルシアターの演じ方①(演じ方の基礎・練習) 10. パネルシアターの演じ方②(グループ練習) 11. 「まんまるさん」オリジナル制作 12. 幼稚園発表に向けてリハーサル① 13. 幼稚園発表の通しリハーサル② 14. 幼稚園にて発表および振り返り 15. 「まんまるさん」発表 まとめ 		
評価方法	提出した課題(60%)、成果発表(40%)、これらを合わせて評価する。		
テキスト *必ず購入	課題に応じてプリントを配布する。		
参考書 *必要に応じ 購入			

科目名	保育教材研究C	授業形式	演習
教員名	橋本 夏夫	授業区分	選必
年次配当	1年次前期	単位数	1単位
授業表題	保育教材についての基礎的な知識と制作に必要な技術を習得する		
授業の概要	制作のさまざまな実践をしながら、道具や材料の基礎的な知識や扱い方を身につけます。また、つくることの楽しさを感じさらにその楽しさを子どもに伝えられる力を身につけます。		
授業の到達目標(ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 制作に必要な基礎的な技法を身につける。 2. ゆっくりと丁寧な制作ができるようになる。 3. 技法を身に付けることで表現力の幅を広げる。 4. 制作の楽しさを子どもたちに伝えられるようになる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の説明・半期予定と評価方法等 基礎的な技法1.:フロッターージュ (こすりだし技法を通して表現の楽しさを味わう) 2. 基礎的な技法2.:コラージュ(フロッターージュを使って季節感のあるコラージュを制作する) 3. 基礎的な技法3.:デカルコマニーと糸引き版画(簡単な技法で偶然に出来た色や形を楽しむ) 4. 基礎的な技法4.:バチックとスクラッチ(クレヨンと絵の具の性質を知り、応用して制作する) 5. 基礎的な技法5.:ステンシルとスパッタリング(多様な技法を知り、応用して制作する) 6. 基礎的な技法6.:スタンピングとローリング(多様な技法を知り、応用して制作する) 7. 基礎的な技法7.:染め紙とマーブリング(多様な技法を知り、応用して制作する) 8. 基礎的な技法のまとめ:材料と道具、糊やハサミの使い方について復習する。(到達度の確認) 9. 季節感のある制作: 簡単なウチワの制作(これまでに学んだ基礎的な技法を応用した工作) 10. 季節感のある制作: カエルのペープサート(子どもの歌に合わせて動かして遊べる工作) 11. カード制作:動きのあるカードを作る(簡単な工夫で表現の幅をひろげる) 12. 打ち上げ花火(日本の伝承玩具を身近にある材料で制作する。)(到達度の確認) 13. 動くおもちゃ制作:ぶんぶんゴマと登り人形(簡単な仕掛けの動くおもちゃを制作する) 14. 紙飛行機を飛ばそう(紙飛行機など飛ばして遊ぶおもちゃを制作する) 15. 保育教材研究Cの振り返り(基礎的技法について、筆記により振り返りを行う)(到達度の確認) 		
評価方法	まとめの筆記、作品、配布プリントをまとめを添付したスケッチブックの提出、授業への取り組みと欠席日数の総合評価		
テキスト *必ず購入	なし・毎回プリントを配布する。		
参考書 *必要に応じて購入	なし・必要に応じてプリントを配布する。		

科目名	乳児保育 I	授業形式	講義
教員名	杉本 栄子	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題			
授業の概要	「乳児保育 I」では、乳児保育の意義・目的や役割についての学びをふまえ、現在の多様な乳児保育の場について理解し、乳児の育ちを支える生活、環境、遊びについて、また、発育・発達をふまえた保育者の援助やかかわりについて学びます。		
授業の到達目標 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的について理解する。 2. 多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の歴史 2. 乳児保育の意義・目的 3. 乳児保育が行われる場 4. 0歳児の発達と保育 ①保育のポイント、発育・発達の特徴 5. 0歳児の発達と保育 ②生活と環境、遊びと環境、保育者の援助 6. 1歳児の発達と保育 ①保育のポイント、発達の特徴 7. 1歳児の発達と保育 ②生活と環境、遊びと環境、保育者の援助 8. 2歳児の発達と保育 ①保育のポイント、発達の特徴 9. 2歳児の発達と保育 ②生活と環境、保育者の援助 10. 2歳児の発達と保育 ③遊びと環境、保育者の援助 11. 健康・安全管理 12. 職員間の連携・協働 13. 保護者との連携、地域の関係機関との連携 14. 乳児保育の今後の課題 15. まとめ 		
評価方法	授業への参加態度・レポート・試験		
テキスト *必ず購入	「健やかな育ちを支える 乳児保育 I・II」 建帛社 高内正子 豊田和子 梶美保（編著）		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	乳児保育Ⅱ	授業形式	演習
教員名	高田 由香理	授業区分	必修
年次配当	2年次後期	単位数	1単位
授業表題	乳児に関わる技術を身につける		
授業の概要	<p>乳児保育Ⅰで学んだ理論を、乳児へ援助できるように演習を通して技術を習得する。 乳児の基本的な援助の方法を正しく理解する。 乳児の発達に合わせた関わり方や、乳児の事故と安全について学ぶ。 発達に合わせた乳児の遊びを、演習を通して身につける。</p>		
授業の到達目標(ねらい)	<p>乳児の発育・発達や乳児の生活を理解し、彼らに関わる基本的な援助の技術を取得する。 乳児の発育・発達に合わせた遊びについて、様々な技術を身につける。 乳児の身の周りの安全を配慮できるようになる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児の一日の生活の流れと保育の環境 保育所でのデイリープログラム 2. 乳児の援助方法1 乳児の観察、抱き方、身体計測、検温 3. 乳児の援助方法2 排泄の援助(汚物処理等)、オムツ交換、着衣交換 4. 乳児の援助方法3 入浴の援助、抱き上げ方、清拭、清潔 5. 乳児の援助方法4 様々な薬の取り扱い方、(小テストの実施) 6. 乳児の生活の援助1 食事、睡眠(午睡)、排泄、遊び、戸外遊び 7. 乳児の生活の援助2 予防接種の考え方、乳児期の接種の計画 8. 乳児の事故と安全1 乳児の蘇生法(グループ演習)、乳児の安全を考えた玩具 9. 乳児の事故と安全2 事例から乳児の事故予防を考える 10. 乳児の遊びの技術を身につける1 親子遊び、音楽遊び、感覚を使った遊び 11. 乳児の遊びの技術を身につける2 言葉を引き出す遊び、乳児の絵本、手遊び 12. 乳児の遊びの技術を身につける3 安全に配慮した乳児の楽しい遊びを考案する(グループ発表) 13. 保護者との関わり方を学ぶ ロールプレイ、専門職、専門機関の繋がり 14. 乳児への長期的な指導計画と短期的な計画 15. 乳児保育の振り返りとまとめ 乳児保育の今後の課題 		
評価方法	期末試験70%・演習20%・小テスト10%		
テキスト *必ず購入	健やかな育ちを考える乳児保育Ⅰ・Ⅱ(健帛社) 注)乳児保育Ⅰと同じ教科書		
参考書 *必要に応じ購入	乳児の生活と保育[第3版](ななみ書房)		

科目名	子どもの健康と安全	授業形式	演習
教員名	高田 由香理	授業区分	必修
年次配当	2年次後期	単位数	1単位
授業表題	子どもの健康と安全対策について学ぶ		
授業の概要	<p>基本的な衛生管理の知識と技術を習得し、子どもの体調不良や危険な兆候にいち早く気がつき対応ができるようになる。また、子どもの全面発達を促す健康な遊びについて学ぶ。後半は、子どもの事故を未然に防ぐことを多角的に学び、敏速で的確な行動と対処ができるよう知識と技術を習得する。特に、練習用のエピペンを用いた事故を想定した演習は真剣に取り組む学びである。</p>		
授業の到達目標(ねらい)	<p>子どもの体調不良や危険な兆候に気がつき、基本的な子どもの健康管理ができるようになる。子どもの事故を未然に防ぐ知識と、事故時では的確な対応ができるよう方法と技術を習得する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康を守るための学び 近年の子どもの健康問題、資料から子どもの健康を読み取る 2. 衛生管理の学び1 正式な手洗い、室内の清潔、正しい嘔吐処理法(実演) 3. 衛生管理の学び2 集団保育での感染予防と対策、よくみられる子どもの感染症 4. 子どもの健康状態を把握する。 子どもの体調不良、呼吸機能の見方、熱中症、ネグレクトの発見 5. 子どもの健康な遊び1 全面発達を促す遊び 社会性を育てる遊び 6. 子どもの健康な遊び2 五感を使った遊びの実演(視覚、聴覚、臭覚、触覚、味覚) 7. 子どもの事故と安全の考え方 リスクマネジメント、事故が起きる時の構造を考える。 8. 緊急を要する子どもの事故と対処1 熱傷、緊急性を要する事故 9. 緊急を要する子どもの事故と対処2 アナフィラキシーショック症状の把握、誤飲 10. 緊急を要する子どもの事故と対処3 子どもの蘇生法、窒息時の遺物除去、止血法、骨折時の対処 11. アナフィラキシーショック時の対応 救急車の呼び方、練習用エピペンによるグループ演習 12. 集団生活での自己防止と安全確認 点呼の徹底、溺水、遊具、高所、交通安全(分析) 13. 災害時での危機管理 正常デバイスとは？(防災心理学の観点から) 災害時の訓練とシミュレーション 14. 不審者に対する安全対策 集団生活での防犯対策、性犯罪から子どもを守る 15. 子どもの健康と安全の振り返り 連帯による安全確保 医療機関との連携 		
評価方法	<p>期末試験70%・課題提出(園の保健だよりの作成)30%</p>		
テキスト *必ず購入	<p>授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全演習ノート 改訂第2版 (診断と治療社)</p>		
参考書 *必要に応じ購入	<p>子どものからだと心白書2023 (ブックハウス・エイチディ)</p>		

科目名	障害児保育	授業形式	演習
教員名	土谷 良巳	授業区分	必修
年次配当	2年次通年	単位数	2単位
授業表題	障がいのある子どもの保育		
授業の概要	<p>まず、障がい児保育を見取り図的に概観し、その理念及び歴史と現状について理解する。続けて様々な障がいの状態に関して幅広く基礎的な知識を得る。次に、障がいのある子どもを早期に発見しその発達を支援する保育、療育の場について整理する。さらに、養育者による障がいの受容と障がいのある子どもの家族の困難、及び障がいのある子どもの発達と子育ての観点について理解を深める。続けて、障がい児保育と障がいのある幼児・児童の特別支援教育の実践について実践記録を通して実際に学ぶ。以上を受けて、障がいのある子どもの困難に対する保育的・教育的対処について、実践事例を参照しつつ実際の知識を整理する。</p>		
授業の到達目標(ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障がいの捉え方について基礎的な理解を得る。 2. 様々な障がいの状態について基礎的理解を得る。 3. 障がいのある子どもへの早期対応と保育・療育について基礎的理解を得る。 4. 家族の困難、障がいの受容について基礎的理解を得る。 5. 障がい児保育と幼児児童の特別支援教育の実際について理解を得る。 6. 障がいのある子どもの困難に対する保育的・教育的対処について実践的な理解を得る。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 障害児保育の学びの見取り図なぜ障害児保育を学ぶのか 2. 障害をどう捉えるか 3. 障害児保育の理念 4. 障害児保育の歴史と現状 5. 障害の基礎的理解:発達の遅れと偏り発達が気になる子どもと発達障害 6. 障害の基礎的理解:知的障害 7. 障害の基礎的理解:肢体不自由と重症心身障害 8. 障害の基礎的理解:病弱と医療的ケア 9. 障害の基礎的理解:聴覚障害 10. 障害の基礎的理解:視覚障害 11. 障害の基礎的理解:重複障害 12. 障害の早期発見と早期支援 専門機関での療育と連携 13. 障害児保育の計画:個別の支援計画と個別の指導計画 14. 職員間の協力 就学へ向けての支援 15. 前期授業のまとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 障害のある子どもの分かりにくさへの支援:構図化されたコミュニケーションと情報の保障 17. 障害のある子どもの活動を広げる支援:子どものイニシアチブと活動の共有 18. 障害のある子どもの主体性を高める支援:共創コミュニケーション 19. 障害のある子どもと家族への支援 20. 重度の障害のある子どものインクルーシブ保育の実際 21. 実習から学んだ障害児保育(1) 22. 実習から学んだ障害児保育(2) 23. 実習から学んだ障害児保育(3) 24. 実習から学んだ障害児保育(4) 25. 障害のある子どもの保育の実際(1):愛育養護学校の実践から学ぶ(1) 26. 障害のある子どもの保育の実際(2):愛育養護学校の実践から学ぶ(2) 27. 障害のある子どもの保育の実際(3):愛育養護学校の実践から学ぶ(3) 28. 障害のある子どもの保育の実際(4):愛育養護学校の実践から学ぶ(4) 29. 障害のある子どもの保育の実際(5):愛育養護学校の実践から学ぶ(まとめ) 30. 後期授業のまとめ 	
評価方法	前期と後期に分けて評価する。前期・後期それぞれ期末試験とレポートを課す(詳細は授業時に示す)。		
テキスト *必ず購入	前田泰弘他(編著)実践に生かす障害児保育・特別支援教育、第2版。萌文書林(2,000円+税)		
参考書 *必要に応じ購入	佐藤学(監)津守真・岩崎禎子(著)学びとケアで育つ。小学館(1,800円+税)		

科目名	特別支援教育の理解と支援	授業形式	演習
教員名	土谷 良巳	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	特別支援教育の理解と支援		
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な障がいの理解と支援に関する基本的・具体的事項 2. 様々な障がいのある子どもの家庭の困難と障害の受容に関する基本的な事項 3. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念と仕組みに関する基本的な事項 4. 特別支援学校、特別支援教室、通級指導教室、及び通常学級における特別支援教育に関する基本的な事項 5. 障がいの状態及び／あるいは特別な教育ニーズに応じた教育課程と支援の方法に関する基本的な事項 6. 生涯学習、キャリア教育の観点からの支援に関する基本的な事項 		
授業の到達目標(ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ICFに基づいて障がいの捉え方に関する基礎的理解を得る。 2. 様々な障がいの状態について、その困難と支援方法に関する基礎的理解を得る。 3. 障がいのある子どもの家族の困難、障がいの受容について基礎的理解を得る。 4. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念と仕組みについて基礎的理解を得る。 5. 特別支援学校、特別支援教室、通級指導教室、及び通常学級における特別支援教育について基礎的理解を得る。 6. 障がいの状態及び／あるいは特別な教育ニーズに応じた教育課程と支援の方法について基礎的理解を得る。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 共生社会とインクルーシブ教育 特別支援教育の理念と制度 2. ICFによる障害の理解と子どもの教育ニーズ 障害の受容と家族への支援 3. 我が国の障害のある子どもの教育の歴史と先駆者(1) 4. 我が国の障害のある子どもの教育の歴史と先駆者(2) 5. 発達障害のある子どもの理解と特別支援教育の実際 6. 知的障害のある子どもの理解と特別支援教育の実際 7. 肢体不自由及び重症心身障害のある子どもの理解と特別支援教育の実際 8. 病弱及び医療的ケアの必要な子どもの理解と特別支援教育の実際 9. 聴覚障害のある子どもの理解と特別支援教育の実際 10. 視覚障害のある子どもの理解と特別支援教育の実際 11. 重複障害のある子どもの理解と特別支援教育の実際 12. 特別支援教育の仕組み(1): 学校教育法と特別支援教育制度 13. 特別支援教育の仕組み(2): 個別の教育支援計画 個別の教育指導計画 14. 特別支援教育の仕組み(3): 障害のある子どもの就学と卒後の進路と生活 15. 授業のまとめ 海外の障害のある子どもの教育 		
評価方法	期末試験、教科書の演習課題への取り組み、読書課題から総合的に評価する(詳細は授業時に示す)。		
テキスト *必ず購入	花熊暁・他(編)特別支援教育概論. 建帛社(2,900円+税)		
参考書 *必要に応じ購入	柘植雅義・木舩憲幸編『改訂新版特別支援教育総論』放送大学教育振興会(2,200円+税)		

科目名	社会的養護Ⅱ	授業形式	演習
教員名	松田 雄年	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	社会的養護で施設生活を余儀なくされた子ども達の実情を理解し、彼らを取りまく社会支援の在り方を想像し、保育士としての倫理や責務を再認識し、自らの生き方を問う		
授業の概要	各施設の実習体験や報告(具体的事例)を通じて、そこで生活している子ども達の心情や職員の生活援助の実態を理解し、更に最新の情報を知ることで、その将来像や支援者像を模索する。感じる心や伝える力を高め、考えを深める手段として、常に課題を投げ掛け、グループ討議を実施する。また、社会的養護を必要とする子どもや親の現状、入所に至る過程とその後の施設養護の実態と支援方法を学び、更に各福祉施設の現状を知ることで、その将来性と福祉に携わる援助者としての専門性の理解を深める。また、演習やグループワークを通して異文化交流の中で、立場を理解し、相手を尊重し、支援者として相応しい保育士人材を育成する		
授業の到達目標(ねらい)	<p>社会的養護Ⅰを基本に社会的養護全般を理解し、ワークを通して保育士としての倫理観と技術を獲得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する ・施設養護及び家庭養護の実際について理解する ・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する ・社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する ・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護Ⅱとは… オリエンテーション(社会的養護の概要 施設の種類 有資格者の仕事 学園が目指す保育士像他) 2. 社会的養護における保育士の在り方と倫理観 保育士の価値と倫理(アドボカシー 倫理綱領 社会的責任 保育士に必要な資質 正直さと謙虚さ他) 3. 社会的養護に関わる専門職 分業と協業(専門職の役割～心理担当職員、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、看護師他) 4. 記録全般 記録の重要性と書き方(多様な記録等の個人情報保護、自立支援計画書策定他) 5. 相談援助の方法と技術① 社会的養護の提供(サバイバー等への配慮、気付き、気配り、気働き等の感性を身に付ける) 6. 相談援助の方法と技術② 児童福祉施設の子どもの特性と関わり方(児童福祉施設の現状と子ども達への関わり方を理解する) 7. 相談援助の方法と技術③ 障害児支援(障害児支援の在り方をグループ討議によって理解する) 8. 相談援助の方法と技術④ 自立支援(自立支援の考え方をグループ討議によって理解する) 9. 相談援助の方法と技術⑤ 心のケア(心のケアと援助についてグループ討議によって理解する) 10. 子どもの虐待防止 人権擁護と苦情解決(人権擁護と苦情解決の権利を守る仕組みから施設を理解する) 11. 家庭支援 家庭復帰と家族再統合(家庭支援専門相談員業務から施設養護を理解する) 12. 地域連携 関係機関との連携(地域社会や学校他諸機関との関わりの中から社会的養護を理解する) 13. チームワークとリーダーシップ 施設の運営管理(施設管理者としての組織と運営及びリーダーシップを理解する) 14. 社会的養護の将来像 「都道府県社会養育推進計画」(福祉施設の在り方、施設の有無、今後の将来像を問う～まとめ) 15. 保育士としての務め 福祉従事者の資質(職員の役割や支援方法とその姿勢・福祉を志す者としての心構え) 		
評価方法	テスト(40%)・レポート(30%)・授業態度及びグループワークへの意欲・貢献度(30%)		
テキスト *必ず購入	特に使用しません(新聞記事や時事のネットニュース等を印刷して提供する)		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	子育て支援	授業形式	演習
教員名	鈴木良東	授業区分	必修
年次配当	2年次後期	単位数	1単位
授業表題	子育て支援の理念、内容、方法について理解し、保育士として実践できる力を身につける		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> •子育て支援の理念・制度・方法について、講義だけではなく、統計資料や新聞記事、映像等を活用しながら、討議をし、理解を深める。 •年に2回程度小テストを行い、到達度を確認する。 •児童福祉施設等職員をゲストティーチャーとして招き、家庭福祉の理解を深める。 		
授業の到達目標(ねらい)	子育て支援の理念・内容・方法について理解し説明できる。 保育士として、子育て支援が実践できるようにする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 子育て支援とは何か 2. 現代社会と子育て支援 3. 保護者や家庭の抱える支援ニーズへの気づき 4. 子どもの発達と子育て支援 5. 相談援助とアセスメント 6. 支援計画の作成 7. 子ども家庭支援センターと児童相談所の機能 8. 保育園、幼稚園、こども園での子育て支援(事例検討①) 9. 保育園、幼稚園、こども園での子育て支援(事例検討②) 10. 児童館、放課後児童クラブでの子育て支援 11. 保健センター、こども発達センターでの子育て支援 12. 特に配慮を必要とする子どもと家庭に対する支援 13. 子育て支援のためのネットワーク 14. 試験とまとめ 15. 子育て支援の現状と課題 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> •授業内での取り組み(積極的な取り組み、発言内容) 10% •レポート 10% •試験 80% 		
テキスト *必ず購入	子育て支援入門(萌文書林)		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	教育相談	授業形式	演習
教員名	大澤 千佳子	授業区分	必修
年次配当	2年次後期	単位数	2単位
授業表題	教育相談の基本的理解と実践的援助スキルを身につける		
授業の概要	保育者が担うように期待されている相談とは、どのような内容か。その期待に応えるために求められる力とは何か。講義の中で基本理解をした上で、事例を掘り下げながら演習を積み重ねていきます。		
授業の到達目標 (ねらい)	「相談」の前提として求められるのは、対象となる子どもと保護者理解及び「カウンセリングマインド」という概念の理解です。 基本の部分は講義で学び、実践力は演習を通して学び獲得していきます。		
授業計画	1. はじめに		
	2. カウンセリングマインドと保育① ミニ演習		
	3. カウンセリングマインドと保育② ミニ演習		
	4. 子どもを知る① ミニ演習		
	5. 子どもを知る② ミニ演習		
	6. 保育者の役割① ミニ演習		
	7. 保育者の役割② ミニ演習		
	8. 親と子と保育者 ミニ演習		
	9. 違いの理解と保育 ミニ演習		
	10. 演習1		
	11. 演習2		
	12. 演習3		
	13. 演習4		
	14. 後期試験		
	15. まとめと振り返り		
評価方法	提出課題・演習への参加姿勢・筆記試験		
テキスト *必ず購入	講師作成自主教材(数冊の教科書資料をもとに作成)を毎回配布		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育実習 I a	授業形式	実習
教員名	専任教員	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	2単位
授業表題	観察・参加実習を通して、保育園での保育者の仕事・子どもの姿を学ぶ。		
授業の概要	保育の実習生として子どもの生活の場に身を置き、そこでの体験を通して乳幼児の生活及び保育への理解を深める。また、実習での実践と省察を経て、学生一人ひとりが保育者としてのあり方を探る。(主に観察・参加実習)		
授業の到達目標(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の一日の流れを体験的に理解する。 ・保育園での保育者の仕事を理解する。 ・さまざまな場面における子どもの姿を知る。 		
授業計画	1.	16.	
	2.	17.	
	3.	18.	
	4.	19.	
	5.	20.	
	6.	21.	
	7.	22.	
	8.	23.	
	9.	24.	
	10.	25.	
	11.	26.	
	12.	27.	
	13.	28.	
	14.	29.	
	15.	30.	
評価方法	実習日誌40%、実習園・施設による評価60%		
テキスト *必ず購入	『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館) 『保育所保育指針解説書』厚生労働省(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育実習 I b	授業形式	実習
教員名	専任教員	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	2単位
授業表題	参加実習を通して、施設における保育者の仕事、利用児者の姿を学ぶ。		
授業の概要	学校で指定した児童福祉施設において、2週間の実習を行なう。 児童養護施設、乳児院、福祉型児童発達センター、医療型障害児入所施設などにおける実習。		
授業の到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・各児童福祉施設の内容・機能を体験を通して理解する。 ・保育者の職務内容および役割、他職種とのチームワーク等を把握する。 ・保育、養護の知識・技能を実践し、要養護の状況に置かれている子どもたちへの理解を図る。 		
授業計画	1.	16.	
	2.	17.	
	3.	18.	
	4.	19.	
	5.	20.	
	6.	21.	
	7.	22.	
	8.	23.	
	9.	24.	
	10.	25.	
	11.	26.	
	12.	27.	
	13.	28.	
	14.	29.	
	15.	30.	
評価方法	実習日誌40%、実習園・施設による評価60%		
テキスト *必ず購入	『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育実習指導 I a I b	授業形式	演習
教員名	専任教員	授業区分	必修
年次担当	1年次後期	単位数	2単位
授業表題	観察・参加実習を通して、保育園・施設での保育者の仕事・子どもの姿を学ぶ。		
授業の概要	保育所及び保育所以外の児童福祉施設の実習について、事前の授業においては、保育所・児童福祉施設についての理解を図り、その上で実習の目的・目標・方法を明らかにする。また、記録や計画、保育者として求められる心得について学習する。		
授業の到達目標(ねらい)	保育所及び保育所以外の児童福祉施設の実習の事前・事後指導を通して、実習への知識や意欲を高めるとともに、保育者として必要な態度や力を養うことを目的とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション: 保育所保育について 保育実習 I a の位置付け、目標・内容を理解する。 2. 子どもの発達とデイリープログラムについて 乳児も含む子どもの発達と、それに応じたデイリープログラムについて学ぶ。 3. 参加実習の記録の意義・書き方について実習園ORについて 参加実習の実際とそのポイント・留意事項を学ぶ。参加実習における記録の意義と具体的な書き方の基本を学ぶ。実習園について知る。 4. 実習園ORのふりかえり 実習園ORをふりかえり、再度実習内容を確認し、記録を作成する。 5. 指導計画と部分実習について 部分実習の実習案の作成について、指導計画と実習案、実践の関係を理解し、実際に作成する。 6. 指導計画と部分実習について実習中・実習後の諸作成した注意部分 実習案を見直すことを通して、指導計画と実習案、実践の関係についての理解を深める。 7. 実習のふりかえり グループで保育園実習の内容のふりかえりを行い、反省点や今後の課題を明確化する。 8. 共通のテーマでのディスカッション: 施設実習の概要について 保育実習 I a の振り返りから共通のテーマを設定し、グループディスカッションを行う。 施設実習における実習の目標・内容の理解を図る。 9. 施設の種別の理解: 施設見学について 各施設の目的・対象・職員構成・養護や療育の実際などについて、調べ学習を行う。 施設実習の事前学習としての施設見学の目的・概要を知る。 10. 施設見学後発表 施設ごとに見学した具体的な内容を発表し、種別の理解を深める。 11. 実習施設についての学習 実際に自分が実習を行う施設について、調べ学習を行い、目的・対象・職員構成・生活の実際など、概要を知る。 12. 実習施設についてのディスカッション 個別に調べ学習した資料をもとにディスカッションを行い、実習施設についての理解を深めるとともに、実習課題を考えあい、実習に臨む際の不安を解消する。 13. 実習日誌・部分実習について 実習日誌の基本的な書き方を学ぶ。 実習のねらいや内容に合わせて書き方を変えていく必要がある場合もあることを学ぶ。 部分実習の基本的な考え方と、部分実習指導案の立て方を学び、実習を行う施設で行うにふさわしい活動を考え、指導案を作成する。 14. 直前学習 実習中によく出会う問題とその対応方法について学ぶ。 15. 実習のふりかえり グループで施設実習の内容のふりかえりを行い、反省点や今後の課題を明確化する。 		
評価方法	事前指導[出席参加状況20%、全提出物・全レポート(指導案、事前訪問報告書)30%] 事後指導[出席参加状況20%、事後報告書、ふりかえりのディスカッション等への参加30%] ※期限の遵守		
テキスト *必ず購入	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 『実習の記録と指導案』ひかりのくに株式会社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領(および解説書)』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針(および解説書)』厚生労働省 フレーベル館		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育実習Ⅱ	授業形式	実習
教員名	専任教員	授業区分	選必
年次配当	2年次後期	単位数	2単位
授業表題	保育園での保育実践とその省察に取り組み、保育の専門職としての意識を培う		
授業の概要	保育の実習生として子どもの生活の場に身を置き、そこでの体験を通して乳幼児の生活及び保育への理解を深める。また、実習での実践と省察を経て、学生一人ひとりが保育者としてのあり方を探る。 (主に参加・責任実習)		
授業の到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの個々の育ちを理解する。 ・保育実践を通して保育技術を習得する。 ・保育園の保育者に求められる社会的役割についての理解を深める。 		
授業計画	1.	16.	
	2.	17.	
	3.	18.	
	4.	19.	
	5.	20.	
	6.	21.	
	7.	22.	
	8.	23.	
	9.	24.	
	10.	25.	
	11.	26.	
	12.	27.	
	13.	28.	
	14.	29.	
	15.	30.	
評価方法	実習日誌40%、実習園・施設による評価60%		
テキスト *必ず購入	『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館) 『保育所保育指針解説書』厚生労働省(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育実習Ⅲ	授業形式	実習
教員名	専任教員	授業区分	選必
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	施設での支援の実践と省察に取り組み、保育の専門職としての意識を培う。		
授業の概要	保育実習Ⅰbで学んだ児童福祉施設一般についての概括的理解を前提として、学校で指定した児童福祉施設において、2週間の実習を行なう。		
授業の到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設、その他社会福祉施設の利用児・者への支援を実際に実践し、職員として必要な資質・能力・技能を習得する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。 		
授業計画	1.	16.	
	2.	17.	
	3.	18.	
	4.	19.	
	5.	20.	
	6.	21.	
	7.	22.	
	8.	23.	
	9.	24.	
	10.	25.	
	11.	26.	
	12.	27.	
	13.	28.	
	14.	29.	
	15.	30.	
評価方法	実習日誌40%、実習園・施設による評価60%		
テキスト *必ず購入	『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館) 『保育所保育指針解説書』厚生労働省(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育実習指導ⅡⅢ	授業形式	演習
教員名	専任教員	授業区分	必修
	2年次通年	単位数	1単位
授業表題	観察・参加実習を通して、保育園での保育者の仕事・子どもの姿を学ぶ。		
授業の概要	保育所及び保育所以外の児童福祉施設の実習について、事前の授業においては、保育所・児童福祉施設についての理解を図り、その上で実習の目的・目標・方法を明らかにする。また、記録や計画、保育者として求められる心得について学習する。		
授業の到達目標 (ねらい)	保育所及び保育所以外の児童福祉施設の実習の事前・事後指導を通して、実習への知識や意欲を高めるとともに、保育者として必要な態度や力を養うことを目的とする。 なお、二年次の保育実習は、保育実習Ⅱと保育実習Ⅲの選択となる。		
授業計画	1.オリエンテーション 保育実習Ⅱの位置付け、目標・内容を理解する。	16.オリエンテーション 保育実習Ⅲの位置付け、目標・内容を理解する。	
	2.記録の意義・書き方について 参加実習における記録の意義と、具体的な書き方の基本を学ぶ。	17.施設の種別の理解 調べ学習を通して、実習を行う施設の種別の概要の理解を図る。	
	3.指導計画と責任実習について① 責任実習とは何かについて、理解する。責任実習の実習案の作成にあたり、留意すべき点について学ぶ。	18.記録の意義・書き方について 施設実習における記録の意義と、具体的な書き方の基本を学ぶ。	
	4.指導計画と責任実習について② 責任実習案を作成・提出・見直し。	19.支援計画と責任実習について 責任実習とは何かについて、理解する。責任実習の指導案の作成にあたり、留意すべき点について学ぶ。	
	5.保育園職員のチームワークと社会的役割について 保育園で働くさまざまな職員の仕事と、チームワークについて学ぶ。	20.施設職員のチームワークと社会的役割について 施設で働くさまざまな職員の仕事と、チームワークについて学ぶ。	
	6.保護者支援・地域支援の実際について 子どもの保護者との具体的なコミュニケーションのあり方について知ることを通して、保護者支援の実際を学ぶ。	21.保護者支援・地域支援の実際について 利用児者の保護者との具体的なコミュニケーションのあり方について知ることを通して、保護者支援の実際を学ぶ。	
	7.実習園ORについて 実習園ORの意味と、留意事項の確認。	22.実習施設ORについて 実習園ORの意味と、留意事項の確認。	
	8.実習園ORのふりかえり 実習園ORをふりかえり、再度実習内容を確認し、記録を作成する。	23.実習施設ORのふりかえり 実習園ORをふりかえり、再度実習内容を確認し、記録を作成する。	
	9.実習園ORをふまえた事前準備① 実習を行うクラスでどのような活動を行うのが望ましいかを考える。実習クラスを想定して責任実習指導案を作成する。	24.実習園ORをふまえた実習準備 実習先でどのような活動を行うのが望ましいかを考える。実習施設を想定して責任実習指導案を作成する。	
	10.実習園ORをふまえた事前準備② 実習を行うクラスでどのような活動を行うのが望ましいかを考える。実習クラスを想定して責任実習指導案を作成する。	25.施設実習についてのまとめと実習課題 実習施設についての学習のまとめをし、実習課題を明確にする。	
	11.実習中・実習後の諸注意 実習中、実習後の留意事項、評価観点の確認。	26.実習中・実習後の諸注意 実習中、実習後の留意事項、評価観点の確認。	
	12.実習のふりかえり グループで本実習の内容のふりかえりを行い、反省点や今後の課題を明確化する。	27.実習のふりかえり グループで本実習の内容のふりかえりを行い、反省点や今後の課題を明確化する。	
	13.共通のテーマでのディスカッション グループディスカッションを行う。	28.共通のテーマでのディスカッション グループディスカッションを行う。	
	14.グループ発表 話し合われたことの発表。	29.グループ発表 話し合われたことの発表。	
	15.まとめ 実習前、実習中、実習後を通じた学習の総括。	30.まとめ 実習前、実習中、実習後を通じた学習の総括。	
評価方法	事前指導[出席参加状況30%、全提出物・全レポート(指導案、事前訪問報告書)20%] 事後指導[出席参加状況30%、事後報告書、ふりかえりのディスカッション等への参加20%] ※期限の遵守		
テキスト *必ず購入	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 『実習の記録と指導案』ひかりのくに株式会社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領(および解説書)』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針(および解説書)』厚生労働省 フレーベル館		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	教育実習 I	授業形式	実習
教員名	専任教員	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	見学・観察実習を通して幼稚園での保育者の仕事・子どもの姿を学ぶ。		
授業の概要	保育の実習生として子どもの生活の場に身を置き、そこでの体験を通して幼児の生活及び保育への理解を深める。 また、実習での実践と省察を経て、学生一人ひとりが保育者としてのあり方を探る(見学観察実習)。		
授業の到達目標(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の一日の流れを体験的に理解する。 ・幼稚園での保育者の仕事を理解する。 ・さまざまな場面における子どもの姿を知る。 		
授業計画	1.	16.	
	2.	17.	
	3.	18.	
	4.	19.	
	5.	20.	
	6.	21.	
	7.	22.	
	8.	23.	
	9.	24.	
	10.	25.	
	11.	26.	
	12.	27.	
	13.	28.	
	14.	29.	
	15.	30.	
評価方法	実習日誌40%、実習園による評価60%		
テキスト *必ず購入			
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	教育実習指導 I	授業形式	実習
教員名	専任教員	授業区分	必修
年次配当	1年次通年	単位数	0.5 単位
授業表題	実習の意義・心得を学び、専門職業人である保育者としての意識を培う		
授業の概要	幼稚園の実習について、事前の授業においては、実習の目的・目標・方法を明らかにし、幼稚園についての理解を図る。また、記録や計画、保育者として求められる心得について学習する。事後の授業においては、主に実習での体験の振り返りを通して、実習での学びを確認し、学生一人ひとりが自己課題の明確化を試みる。方法としては、クラス全体での授業、グループでの演習、事前・事後指導のための個人面接及び実習中の訪問指導を行う。また、プラクティカルスタディ、宿泊研修、フレンドリーウィークについても実習事前学習として位置づける。		
授業の到達目標 (ねらい)	幼稚園の実習の事前・事後指導を通して、実習への知識や意欲を高めるとともに、保育者として必要な態度や力を養うことを目的とする。		
授業計画	<p>1. オリエンテーション 2年間の実習の流れと、各実習の目的、内容を理解する。</p> <p>2. 幼稚園・保育園・施設の概要 実習を行う幼稚園・保育園・施設について、それぞれの目的、対象、保育者など、概要について学び、違いを理解する。</p> <p>3. 本学園の幼稚園・保育園について 幼稚園、保育園の目的、生活、保育者の役割などについて学ぶために、モデルとして本学園の幼稚園、保育園についての概要を知る。</p> <p>4. 園の環境見学① 幼稚園の環境を見学し、環境構成の工夫や子ども達が普段どのように過ごしているかを学ぶ。</p> <p>5. 園の環境見学② 保育園の環境を見学し、環境構成の工夫や子ども達が普段どのように過ごしているかを学ぶ。</p> <p>6. 保育者として必要な資質について 保育現場に入る際、留意しなければならないことを考える。特に、実習に対する目的意識、実習態度の基本について学ぶ。また、保育者自身の生活習慣がこどものモデルになることに鑑み、学生自身が自分の生活リズム、生活習慣、食習慣などの日常生活を振り返り、保育者になるにあたって、改善点を考える。</p> <p>7. 見学・観察実習について 園の環境見学をふまえ、見学・観察実習の目的と視点を学ぶ。</p> <p>8. こどもへの援助の実際 学園内の幼稚園、保育園に2日間の保育体験(フレンドリーウィーク)に入り、幼稚園の一日の流れや保育者の動き、子どもへの援助の実際を学ぶ。</p> <p>9. 実習園オリエンテーションについて 実習園オリエンテーションの意義・概要を知り、オリエンテーションを受ける際の留意事項を確認する。また、実習園オリエンテーション時の記録のとり方を学ぶ。</p> <p>10. 実習日誌の書き方について ねらいの立て方、記録のとり方、考察や反省の書き方など、実習日誌の記入のし方の基本を学ぶ。一定時間こどもを観察した記録を書く。</p> <p>11. 部分実習について 実習中に行う部分実習の意義・概要を知り、部分実習指導案の書き方について学ぶ。また、部分実習として行う活動を調べ、実際に指導案を作成する。</p> <p>12. 実習日誌・部分実習のまとめ 実際に学生が書いた記録や指導案をもとに、記録や立案の際、どのようなことに留意したらよいかを学ぶ。</p> <p>13. 実習期の保育、子どもの姿について 幼稚園実習の時期に予想される子どもの姿、園生活の概要を知る。</p> <p>14. 実習直前指導 実習に臨む心構え、持ち物、学校や園との連絡方法、最終日の日誌の提出など、実習中、実習後の留意事項の確認を行う。</p> <p>15. 実習のふりかえり 実習報告書の作成と、実習のふりかえりのディスカッションを行い、学んだことを共有し、今後の課題を明確にする。</p>		
評価方法	出席参加状況、全提出物・全レポート(期限の厳守)、グループディスカッションへの参加状況、フレンドリーウィーク、プラクティカルスタディへの取り組み状況		
テキスト *必ず購入	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 『実習の記録と指導案』ひかりのくに株式会社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領(および解説書)』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針(および解説書)』厚生労働省 フレーベル館		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	教育実習Ⅱ	授業形式	実習
教員名	専任教員	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	3単位
授業表題	幼稚園での教育実践とその省察に取り組み、保育専門職としての意識・態度を培う		
授業の概要	保育の実習生として子どもの生活の場に身を置き、そこでの体験を通して幼児の生活及び保育への理解を深める。 また、実習での実践と省察を経て、学生一人ひとりが保育者としてのあり方を探る(主に参加・責任実習)。		
授業の到達目標(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの個々の育ちを理解する。 ・保育実践を通して保育技術を習得する。 ・幼稚園の保育者に求められる社会的役割について理解を深める。 		
授業計画	1.	16.	
	2.	17.	
	3.	18.	
	4.	19.	
	5.	20.	
	6.	21.	
	7.	22.	
	8.	23.	
	9.	24.	
	10.	25.	
	11.	26.	
	12.	27.	
	13.	28.	
	14.	29.	
	15.	30.	
評価方法	実習日誌、指導案40%、実習園による評価60%		
テキスト *必ず購入			
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	教育実習指導Ⅱ	授業形式	実習
教員名	専任教員	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	0.5単位
授業表題	「保育者」としての基礎基本を培う		
授業の概要	幼稚園の実習について、事前の授業においては、実習の目的・目標・方法を明らかにし、幼稚園についての理解を図る。また、記録や計画、保育者として求められる心得について学習する。事後の授業においては、主に実習での体験の振り返りを通して、実習での学びを確認し、学生一人ひとりが自己課題の明確化を試みる。方法としては、クラス全体での授業、グループでの演習、事前・事後指導のための個人面接及び実習中の訪問指導を行う。また教育実習指導Ⅰと同様に宿泊研修も実習事前学習として位置づける。		
授業の到達目標(ねらい)	幼稚園の実習の事前・事後指導を通して、実習への知識や意欲を高めるとともに、保育者として必要な態度や力を養うことを目的とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2年間の実習の中での、本実習の位置づけ、目標・内容を理解する。 2. 記録の意義・書き方について 参加実習における記録の意義と、具体的な書き方について考える。 3. 指導計画と責任実習について① 責任実習とは何かについて、保育計画の流れの中で理解する。責任実習の実習案の作成について学ぶ。 4. 指導計画と責任実習について② 作成した責任実習案を見直すことを通して、保育計画と実習案、実践の関係への理解を深める。 5. 実習園ORについて 実習園について知る。実習園ORの意味と、留意事項の確認を行う。 6. 実習園ORのふりかえり 再度実習内容を確認し、記録を作成する。 7. 実習園ORをふまえた実習準備① 自分が実習を行うクラスでどのような活動を行うのが望ましいかを考える。実習クラスを想定して責任実習指導案を作成する。 8. 実習園ORをふまえた実習準備② 自分が実習を行うクラスでどのような活動を行うのが望ましいかを考える。実習クラスを想定して責任実習指導案を作成する。 9. 幼稚園の社会的役割について 幼稚園における職員の連携とその意味、子育て支援について学ぶ。 10. 保護者支援について 子どもの保護者との具体的なコミュニケーションのありようについて学ぶ。 11. 実習中・実習後の諸注意 実習中、実習後の留意事項、評価観点の確認。 12. 実習のふりかえり 実習報告書を作成し、個別に反省点や今後の課題を明確化する。 13. 共通のテーマでのディスカッション 共通のテーマを設定し、グループディスカッションを行う。 14. グループ発表 グループディスカッションで話し合われたことの発表。発表しあうことを通して、実習での学びを整理し、今後の課題をさらに明確化する。 15. まとめ 実習前、実習中、実習後を通じた学習の総括。 		
評価方法	事前指導[出席参加状況30%、全提出物・全レポート(指導案、事前訪問報告書)20%] 事後指導[出席参加状況30%、事後報告書、ふりかえりのディスカッション等への参加20%] ※期限の厳守		
テキスト *必ず購入	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 『実習の記録と指導案』ひかりのくに株式会社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領(および解説書)』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針(および解説書)』厚生労働省 フレーベル館		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	教育保育実践演習	授業形式	演習
教員名	専任教員	授業区分	必修
年次配当	2年次後期	単位数	2単位
授業表題	2年間の学びを集大成し、自らの保育者像を深める		
授業の概要	<p>1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項</p> <p>2. 社会性や対人関係能力に関する事項</p> <p>3. 幼児理解やクラス運営に関する事項</p> <p>4. 保育内容の指導力に関する事項</p> <p>について、理論と実践の統合が図られるようロールプレイング(役割演技)や保育の事例研究、模擬保育の実践、指導案作成や実践記録の作成、それを省察する観点からのグループ討議などを行う(1回180分授業)。</p>		
授業の到達目標(ねらい)	<p>幼稚園教諭・保育士の資格を取得するために必要な授業科目の履修やそれ以外の様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が保育者としての資質能力としてどのように統合され、形成されたかについて、2年間の履修カルテをもとに自己の課題を確認し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図り、保育者としての歩みを円滑にスタートさせることができるようになることをねらいとする。</p>		
授業計画	<p>1. オリエンテーション「教職実習演習」の学びの目的を理解する これまでの学校生活の中で身につけた資質能力が、保育に携わるものとして、最小限必要な資質・能力として有機的に統合され形成されているかについて最終確認する。</p> <p>2. これまでの学びを現場に生かすため(1) 保育者(幼稚園教諭・保育士)の使命感・責任感・教育的愛情に関する事項を確認する。</p> <p>3. これまでの学びを現場に生かすため(2) 教職の意義、保育者(幼稚園教諭・保育士)として教職の意義役割。職務内容・子どもに対する責任等について体得したことの再確認。</p> <p>4. コミュニケーション能力を身につける(1) 対人関係能力、組織の一員としての自覚、保護者や地域関係者との人間関係の構築等について身につけていることの確認。</p> <p>5. コミュニケーション能力を身につける(2) 十分な社会性を身につけているかの確認。</p> <p>6. 子ども理解の確立 乳幼児理解(身体や心理)について、ポイントを整理する。</p> <p>7. クラス運営案の作成(1) クラス運営案作成のポイントを理解する。</p> <p>8. クラス運営案の作成(2) クラス運営のための案を作成する。</p> <p>9. 教育(保育)現場の見学・調査 乳幼児の教育現場の見学(幼稚園・保育園)</p> <p>10. 記録作成 討論・評価 幼児の教育現場の見学記録を書く。見学記録の発表・グループ討論。</p> <p>11. 幼稚園教育要領における重点課題の確認 具体期な場面を想定して指導案を作成し、演習をする。</p> <p>12. 保育指針の改定における重点課題の確認 養護機能と教育機能を明確にして、一体として保育を進める。</p> <p>13. 模擬保育の実践と評価 作成した指導案に基づいて模擬保育をする。</p> <p>14. 保育の質を改善するために留意すること ① 保育のあり方の改善、保育の改定点を中心に保育を見直す。 ② 指導の充実のために、保育課程教育課程を作成する。</p> <p>15. まとめ</p>		
評価方法	教職履修カルテ、レポート、授業における態度・意欲から総合的に評価する		
テキスト *必ず購入	<p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館</p> <p>『幼稚園教育要領(および解説書)』 文部科学省 フレーベル館</p> <p>『保育所保育指針(および解説書)』 厚生労働省 フレーベル館</p>		
参考書 *必要に応じて購入			